



千葉大学医学部同窓会報 第164号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みのほな同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 みのほな同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内 みのほな同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : http://www.inohana.jp/

### 平成25年度 みのほな同窓会総会開催

平成25年度のみのほな同窓会総会が、平成25年6月29日(土)午後4時より、三井ガーデンホテル千葉において開催された。

瀧口正樹理事の司会により、伊藤晴夫会長から開会の辞が述べられた。会議に先立って、物故者100名の冥福を祈り黙祷を捧げた。伊藤会長の挨拶に続いて、瀧口理事より会務報告があった。各議事について鈴木信夫副会長、田邊政裕理事、白澤浩理事、瀧口理事から説明があり審議承認された(議事要旨は26・27面に掲載)。総会に引き続き、平成25年度のみのほな同窓会賞の表彰式(関連記事は7・8面に掲載)と前野哲博筑波大学医学医療系地域医療教育学教授の特別講演が行われた(講演内容は2面に掲載)。

### 会長再任挨拶

みのほな同窓会長 伊藤 晴夫 (昭39)



この度、千葉大学みのほな同窓会の会長を再びお引き受けすることになりました。大井利夫先生、清陽高穂先生、鈴木信夫先生という強力な副会長のご協力を得て、微力を尽くす所存です。さらに、各支部長、理



### 祝 叙勲

- 平成22年 秋の叙勲
- 瑞宝双光章 相原 茲明(昭33)
- 平成25年 春の叙勲
- 瑞宝中綬章 島崎 淳(昭29)
- 小形岳三郎(昭33)
- 安達恵美子(昭37)
- 瑞宝小綬章 計見 一雄(昭39)
- 旭日双光章 春日 建邦(昭34)
- 小野寺美津雄(昭33)
- 瑞宝双光章 本位田泰介(昭28)

1ク等に実を結びました。新みのほな同窓会館建設は大震災の復興事業による資材・人件費の急騰により入札に難航しましたが、昨年暮れに落札し、本年中には竣工の予定です。新会館は同窓会にとりましては勿論のこと、特に亥鼻の学生の活動と修養のために極めて有意義なことと思います。現在、同窓会の課題として、評議員会の活性化策が検討されております。以前から指摘されておりました若い会員の同窓会離れに対応すると共に、今後の同窓会の一層の活性化に資するためです。これまで、みのほな同窓会は各支部を基盤にして発展してきたものと思っております。これを大切にすると共に、今後は、各学年の代表を中心とする評議員会も充実させるべきと考えます。これにより各世代を網羅する迅速かつ明確な意思決定が可能となり、より大きな活動が出来るようになるものと考えます。みのほな同窓会も、例えば日本の私学の良い面は積極的に取り入れ、更には米国に於ける同窓会のように強大な組織と財政基盤を整え、会員各層、千葉大学をさらに支援できるようになればと思

事、評議員の皆様をはじめ会員各位と協力してみのほな同窓会の一層の発展に努めたいと思います。 会員の親睦・交流の場として年3回お届けしております同窓会報は、カラー化も軌道に乗り、毎号盛りだくさんの内容です。最近では、ホームページの充実にも力を入れております。動画なども見受けまますので、会員の皆様の積極的な参加をお願い致します。

第18回(2013年度) みのほな同窓会賞 授賞者決定

### 社会員献賞

永井友二郎 (永井医院、昭16卒)

### 寺井 勝

(東京女子医科大学八千代医療センター、昭53卒) 「千葉県西部における地域中核病院の立ち上げとその実践」 堂垂伸治 (どうたれ内科診療所、昭60卒)

### 紙面紹介

- 総会開催
- 特別講演
- 就任挨拶
- 叙勲感想
- 同窓会賞受賞
- 各地のみのほな会
- クラス会
- 追悼文
- 研修プログラム
- 研修医だより
- 学生教育
- 課外活動団体だより
- 会員から
- 地区のみのほな会報
- 著書紹介
- 懇談会
- 議事要旨
- オンライン会報
- 会館設立
- 雑談
- 編集後記

30	28	26	22	21	19	17	11	9	7	5	3							
40	38	37	29	27	25	24	23	22	20	18	16	15	11	8	6	5	2	1

あのはな同窓会総会

特別講演

大学における地域医療教育の現状と課題

筑波大学医学医療系 地域医療教育学

教授 前野 哲博



地域医療 (Community-Based Medicine) において

発生する医療ニーズは、特定の臓器に偏っているわけではない。また、医療以外の保健・福祉を含めた健康問題への対応も必要である。

つまり、地域医療に従事する医師には、日常的によく発生する健康問題に幅広く対応できる能力、予防医学、社会的背景、地域包括ケア(学校医、地域保健活動)にも適切に対応できる能力、すなわち総合診療能力が必要不可欠である。

この流れを受けて、厚生労働省の「専門医の在り方に関する検討会」では、本年4月に発表された報告書において、総合診療専門医を「地域を診る医師」として、新たに基本領域の専門医として位置づけ、そのキ

体制や教育設備は十分とは言えない。

今後、地域で活躍する総合診療能力を備えた医師を養成するためには、大学と地域が緊密に連携して相互補完的な関係を構築し、地域医療の現場で充実した指導体制の下で学べる環境を整備することが急務である。また、若手医師が安心して地域でキャリアを重ねていく体制を構築するために、教育体制の充実のみならず、ワークライフバランスやアカデミックキャリアにも十分配慮したキャリア支援システムの整備も必要不可欠である。

大学における医学教育においても、多くの大学で地域枠が導入され、その定員数は医学生約7人に1人(約1300人/年)に達するなど、地域で活躍する医師の養成は、大学にとって重要なテーマであると言える。

通常、大学における臨床教育の中心となっているのは大病院であるが、大病院は教育病院であると同時に原則として地域の医療機関からの紹介をもとに高次医療を提供する特定機能病院としての側面を持っている。つまり、日常よく遭遇する健康問題や慢性疾患で気軽に受診できる医療機関ではないため、地域医療教育のフィールドとしては不向きである。一方、地域医療機関は、教育の場としては適しているも、教育機関である大学に比べて指導

医・後期研修医すべての段階における地域医療教育の拠点となっている。

2009年には、茨城県によって地域医療教育学寄附講座が開設され、2名の教員が配置された。県内多数の医師不足地域である神栖市を教育モデル地域として位置づけ、現地に1週間滞在して、訪問看護、住民体験実習、地域健康教育、乳児検診等を幅広く経験する地域滞在型実習を開始している。2012年には、北茨城市も新たに教育拠点に加えて、実習の範囲を拡大している。

同じ2009年には、茨城厚生連の協力の下、水戸協同病院に筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターが設置された。これは、市中病院に大病院の教育機能を展開することをコンセプトとしており、現在22名の教員が在籍している。総合診療科を中心とした診療教育体制を整え、カンファレンスや教育回診の充実、電子ジャーナル、各種データベース、シミュレータ、外国人指導医の招聘など、教育環境の整備を行った結果、学生・若手医師の人氣が急速に高まり、全国的にも大きく注目される病院となつて、研修医マッチング

で3年連続フルマッチになるなど、研修医・若手医師の確保にも貢献できるようになった。それに伴い病院のactivismも向上し、現在では水戸市で最も多くの救急車を受け入れるなど、診療面でも地域医療に大きく寄与している。この地域医療教育センター・ステーションのシステムは、水戸協同病院を皮切りに、現在では茨城県立中央病院、ひたちなか総合病院、日立総合病院、茨城県立こども病院、国立病院霞ヶ浦医療センターに順次開設され、現在50名を超える教員が配置されている。

このような取り組みは、大病院にも好影響をもたらしている。昨年度の筑波大学附属病院のマッチ者数は全国で第4位に相当する76名であった。本院を希望した理由として、多くの内定者が大病院と水戸協同病院などの地域医療教育センターと双方で研修できるメリットを挙げている。これは、地域医療教育の充実が筑波大学附属病院の医師確保につながることを示すモデルケースであると考えられる。

このような取り組みは、医療の両立」がキーワードとなる。大学の持つ教育機能とネットワークを最大に生かした地域循環型プログラムの整備が急務である。ただし、地域医療教育は、大学教員だけが行うものではなく、また医師だけが行うものではない。自治体、地域住民、地域医療機関が一体となって、「地域で活躍する医師は地域で育てる」という理念を共有して、主体的に教育に関わる体制を構築することが求められている。

あのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

第十九回(二〇一四年度)あのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

一、受賞対象者

① 社会貢献賞 本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。

② 功労賞

医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学あのはな同窓会に多大の貢献をした者。

二、表彰

① 社会貢献賞 (三件以内) 盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。

② 功労賞 (二件) 盾および賞金十万円を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇一三年十二月一日から二〇一四年一月三十一日までに申請して下さい。

四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

審査結果は二〇一四年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、あのはな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内、あのはな同窓会事務室  
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。



# 就任挨拶

## 千葉大学大学院医学研究院

### 免疫細胞医学 教授

#### 本橋 新一郎 (平5)



平成25年4月1日付けにて、千葉大学大学院医学研究院免疫細胞医学の教授を拝命いたしました。この場をお借りして、これまでにお世話になりましたのほな同窓会の諸先生方に心より感謝申し上げます。

私は平成5年に千葉大学医学部を卒業後、故山口豊教授が主宰されていた千葉大学肺癌研究施設第一臨床部門（外科）に入局しました。初期臨床研修終了後の平成10年に千葉大学大学院に入学し、当時免疫発生学教室を主宰されていた谷口克先生の研究室にて、肺癌症例におけるNK細胞免疫系の機能解析を中心とした基礎研究を行い、学位を取得いたしました。

学位取得とともに私にとってかけがえのない経験と

なつたのは、免疫発生学が胸部外科学（現在の呼吸器病態外科学）の藤澤武彦教授とともに進めていたNK細胞を用いた免疫細胞治療のErista-Huma試験に計画当初から関わったことでした。基礎研究の結果から新規治療法を開発するトランスレーショナルリサーチの重要性や困難さ、そして何と言っても基礎研究が社会に貢献する道筋を付けていく喜びを経験させて頂く事が出来ました。

「免疫細胞医学」は、平成13年4月に先端応用医学研究部門の先端応用医学講座に開設された研究領域で、医学研究院が平成24年7月に改組された中では、先端がん治療学研究講座に属する研究領域です。現在免疫発生学の教授を務められておられる中山俊憲先生が平成13年から平成16年まで教授を務められ、平成19年からは私が免疫発生学と併任で免疫細胞医学の准教授を務めて参りました。

免疫細胞医学では、NK細胞を利用した免疫細胞治療の臨床研究を中心として、がんに対する免疫治療の開発研究を行っております。

臨床研究から得られた結果のメカニズム解析のために基礎研究に立ち戻ったり、ヒト化マウスを用いた新規治療法開発研究といった基礎研究にも力を入れております。また平成20年からは中山教授がプログラマリーターを務められた千葉大学グローバルCOEプログラム「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」に事業推進担当者として参加させて頂き、治療学研究を推進することで、肺癌に対する「NK細胞免疫治療の先進医療としての承認など、臨床研究を大きく前進させることが出来ました。さらに臨床研究実施の中心施設として平成20年に医学部附属病院に設置された未来開拓センターや、平成24年に治療学推進のための全学のセンターとして設置された未来医療教育研究センターにおいて、若手研究者や学生に対して医療イノベーションを実現していく工程のオンザジョブトレーニングを始めとする教育活動も行って参ります。未来開拓センターは高いレベルで無菌性が

担保された細胞調製センターを備えており、稼働率は全国の同様の施設の中でもトップクラスを誇っております。

今後もこのような施設を活用しながら、がんを代表とする難治性疾患に対する新規治療法開発研究を推し

## 千葉大学大学院医学研究院

### 分子腫瘍学 教授

#### 金田 篤志 (東京大・平6)



進め、千葉大学発革新的治療を世界に向けて発信していきたいと考えておりますので、千葉大学医学部のはな同窓会の先生方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

先におきましては発癌分子機構の解明とその臨床応用を意識した癌エビゲノム研究を進めて参りたく存じます。

私は平成6年に東京大学医学部を卒業し、当時の第3外科学教室、現在の大学院消化管外科学に入局いたしました。大原毅教授、上西紀夫教授のご指導のもと6年間外科腫瘍学を研鑽しましたが、このときの臨床外科医としての経験が後の癌研究のモチベーションになっていきます。平成12年に大学院進学後は、主に3つの研究所で13年間、癌エビゲネティクス研究を進めました。国立がんセンター研究所の牛島研究室においては胃癌のDNAメチル化異常を研究し、癌に蓄積し

たエビゲネティクス異常の網羅的探索に成功いたしました。米国留学中はジョーンズ・ホプキンス大学のフラインバーグ研究室において発癌に関わる原因としてのエビゲネティクス異常の研究を進め、DNA遺伝子インプリンティング異常による大腸癌リスクを明らかにしました。帰国後は東京大学先端科学技術センター油谷浩幸教授のゲノムサイエンス分野においてアレイや次世代シーケンサーを用いた網羅的エビゲノム解析を行い消化器癌を中心に発癌機構研究を進めました。医学部在学中は村松正實教授の生化学講座において、千葉大学でのクラークシッ

プに相当するフリークウォーターという制度で指導を賜り、第5学年の夏に2か月間カリフォルニアのDNAX研究所に留学させて頂きました。生化学研究、ゲノムDNA研究に学部学生時から興味を抱いておりましたが、臨床外科など様々な時を経てこうして生化学領域の教員となったことにご縁を感じ、大変有り難く、また身の引き締まる思いでございます。優秀な医師を輩出する教育の一助を担い、また医学の発展に寄与する癌研究を進めて参る所存です。今後とも同窓会の皆様のご指導、ご鞭撻、ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 昭和大学医学部

### 生理学講座生体調節機能学部門 教授

#### 泉崎 雅彦 (弘前大・平4)



いたしました。千葉大学呼吸器内科の栗山喬之教授、異浩一郎教授を始め、のはな同窓会の諸先生方には、これまで様々な場面で大変お世話になってまいりました。心より感謝を申し上げます。

現在は生理学を専門としていますが、始まりは呼吸器内科医でした。平成4年

平成25年4月1日付けで、本間生夫前教授の後任として昭和大学医学部生理学講座第二生理学の教授を拝命

たエビゲネティクス異常の網羅的探索に成功いたしました。米国留学中はジョーンズ・ホプキンス大学のフラインバーグ研究室において発癌に関わる原因としてのエビゲネティクス異常の研究を進め、DNA遺伝子インプリンティング異常による大腸癌リスクを明らかにしました。帰国後は東京大学先端科学技術センター油谷浩幸教授のゲノムサイエンス分野においてアレイや次世代シーケンサーを用いた網羅的エビゲノム解析を行い消化器癌を中心に発癌機構研究を進めました。医学部在学中は村松正實教授の生化学講座において、千葉大学でのクラークシッ



に弘前大学医学部を卒業し、栗山喬之教授が主宰する千葉大学医学部附属肺病研究施設第二臨床研究部門（現在の呼吸器内科）に入局を認めていただきました。千葉大学医学部附属病院にて呼吸器内科および麻酔科の研修を行い、以後は関連病院である小田原市立病院、成田赤十字病院、千葉東病院において内科医、呼吸器内科医として勤務し、なのはな同窓会の多くの先生方からご指導を受けることができました。

平成9年4月に大学院に入学しましたが、その際に栗山教授の仲立ちにより、本間教授が主宰する昭和大学医学部第二生理学にて呼吸器生理学の研究に取り組むこととなりました。呼吸器生理学は現在では人気のある研究分野とは言えません。しかし、呼吸器疾患に悩む患者さんを診ることの多かった自分にとって、呼吸調節機構に関する研究のみならず、そのような患者さんを対象とした研究にも携わる機会を頂き、興味をひかれることが数多くありました。そして大学院卒業にあたっては、栗山教授に臨床から生理学へ進むことをお許しいただき、その後は昭和大学医学部第二生理学の

スタッフとして主に上位中枢による呼吸調節機構に関する研究と学生教育に従事してまいりました。

昭和大学は前身である昭和医学専門学校が昭和3年（1928年）に開学し、現在は医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部と8つの附属病院を擁する医系総合大学です。創設者による建学の精神である「至誠一貫」のもと、その体現を目標に

大学が運営されています。「国民の健康に親身になって尽くせる臨床医家を養成する」という創設者の願いがあり、生理学研究と生理学教育を担う立場から、優れた臨床医師の育成に貢献したいと思っています。その強い期待も感じています。

なのはな同窓会の皆様には、今後ともご指導を頂けますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

**東邦大学医学部**

**外科学講座 呼吸器外科学分野 教授**

伊豫田 明 (信州大・平3)



この度は、大変お世話になりました千葉大学の先生方に御礼を申し上げる機会をいただき、誠にありがとうございます。平成25年6月1日をもって、東邦大学医学部外科学講座呼吸器外科学分野教授を拝命しましたので、御礼を兼ねましてご報告申し上げます。

私は平成3年信州大学医学部卒業後、三井記念病院外科にて一般外科臨床研修

を行い、平成7年4月より、当時の肺病研究施設第一臨床研究部門（肺外科）に入局いたしました。山口豊先生に呼吸器外科学を基礎からご指導いただき、千葉労災病院に由佐俊和先生に御指導いただいた後、大和田英美先生が主宰されていた肺病研究施設病理研究部門において肺病を中心とした呼吸器病理を研究させていただきました。当時の研究室は、大和田先生のもと、廣島健三先生、豊崎哲也先生、塚本喜昭先生、芳賀由紀子先生、留学生の花園さん、阿部さん、花園さん、佐藤さんが和気

満々と病理診断、研究に取り組む、非常に雰囲気の良い中で、自由闊達に研究をさせていただき、私のライフワークともいえる肺大細胞神経内分泌癌に関する研究テーマを大和田先生、廣島先生からいただいたのが大きな転機となったと思います。病理での研究期間が終了した後も、廣島先生には継続して研究のご指導をいただき、業績を残すことができました。その後国立療養所千葉東病院へ向うし佐藤展将先生、山川久美先生、藤野道夫先生に御指導

いただいた後、平成13年10月より千葉大学医学部附属病院にて藤澤武彦先生、吉野一郎先生のもとで診療、教育、研究に携わる機会をいただき、平成20年4月に三井記念病院時代の先輩であった佐藤俊之先生の教授就任に際し、佐藤先生の主宰される北里大学へ赴任することとなりました。千葉大学で、診療、研究、教育に充実した13年間を過ごさせていただいたおかげで、今回このような機会をいただけたものと深く感謝しております。

東邦大学は、私が赴任した本院の大森病院が大田区に約1000床を有し、その他大橋病院、佐倉病院と3病院をかかえ、建学の精神「自然・生命・人間」を基盤に安全で質の高い医療の提供を目標としています。

現在上部消化管外科で島田英昭先生や病理診断科で栃木直文先生が活躍中です。本院の呼吸器外科では昨年、260例以上の手術を行っており、消化器外科を含めて低侵襲手術に積極的で、今年度、da Vinciも導入される予定であり、Robotic Surgeryへの対応も求められています。

今後の呼吸器外科医療は、より個別化がすすみ、再生医療の導入も視野におかなければなりません。私は、これまでの診療、研究の方針を継続しながら、診療ではテーラーメイド医療の導入、低侵襲手術から拡大手術までの対応、Robotic Surgeryなど最新技術の導入を実行しながら診療実績をさらに向上させ、研究に関しては、再生医療の導入に向けて共同研究を推進しながら、新しい時代の到来を見据えて対応していこうと思っております。さらに、最も重点を置いているのは教育であり、一緒に技術を高めあいながら世界的に活躍できる呼吸器外科医を育てたいと思っております。最後にになりますが、これ



**茨城県公安委員会委員長就任に当たって**  
諸岡 信裕 (金沢大・昭48)

平成25年3月30日付けで、茨城県公安委員会委員を拝命いたしました。私は、昭和48年に金沢大学医学部を卒業し、当時の千葉大学第二内科に入局、その後第三内科開講と共に稲垣義明教授のもとで、非観血的循環器画像診断学の臨床研究を行いました。平成5年まで、第三内科講師を務め、出身地の茨城に戻り、つい最近開港しました「茨城空港」の地元、小美玉市にある小川南病院の院長に就任し現在に至っております。その間、茨城県医師会活動に従事し、平成12年には、茨城県医師会理事、平成20年同副会長に就任し、社会保険産業保健、地域医療、医師協同組合などの様々な課題に取り組んでおります。また、井上会長をはじめとし

これまでご支援をいただいた千葉大学なのはな同窓会の先生方に深く感謝いたします。

これからも引き続き、御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

て、千葉県医師会の役員の方には、常にご指導を賜わり大変お世話様になっております。

小生が就任いたしました茨城県公安委員会委員は、県知事が県議会の同意を得て任命した3名で構成されていますが、政令指定都市がある千葉県や埼玉県などの都道府県では、5名構成となっております。公安委員会は、県知事の所轄の下に置かれ、県警察を管理する独立性の高い行政委員会（早議制の執行機関）であります。公安委員会の設置目的は、警察の民主的運営と政治的中立性を確保することであり、原則として、毎月4回の定例会を開催しています。定例会では、県警察の基本方針や重要課題、各種施策等への取り組みについて県警察から報告・説明を受け、公安委員会として基本的な方針（大綱方針）を示し、それを警察の仕事に活かしていくことが重要な任務となっております。現



在、全国各地で悪質犯罪が多発しており、日本は世界で一番治安が良い国とは言いがたくなってきたのは事実であります。我々が、安心かつ安全に生活できる社会

の実現を目指し、積極的に提言し、努力してゆきたいと思えます。これからも、ゐのはな同窓会の皆様のご指導宜しくお願いいたします。

東京女子医科大学学長に

速 笠 貫 宏(昭42)氏 就任

受章の挨拶

瑞宝中綬章

瑞宝中綬章の叙勲

島 崎 淳(昭29)



平成25年春の叙勲で、瑞宝中綬章を戴きました。これには私をご指導して下さり、またともに仕事をしていたいただいた、ゐのはな同窓会の皆様をはじめとして、群馬大学、関連病院や放射線医学総合研究所の先生がた、そのほか多くの方々のおかげであり、あらためて感謝する所です。

日本がやっと復興し始めた昭和29年に卒業、1年間

うちにすぎ、国家試験の口頭試問は某大学の皮膚科の先生でした。どこの教室で指導願うかというときになり、希望者が少なかつた皮膚泌尿器科にお願いしました。基礎研修のすぎたころ、昭和35年に皮膚科泌尿器科の分離となり、泌尿器科を専攻しました。外科的技術が発展し始めた時期で百瀬剛一教授や先輩諸先生に指導されましたが、また内分沁学も急成長しており、まず男子不妊症の研究を片山喬先生(富山医科薬科大学名誉教授)と、解剖学永野俊雄先生に精巣組織を教わりながら始めました。昭和36年群馬大学でも皮

膚科泌尿器科の分離となり、泌尿器科初代教授の志田圭三先生にそれぞれ前橋にいました。当時の泌尿器科は膀胱癌の研究が盛んで、前立腺に興味をもつひとが少なかったもので、これを対象にしました。ステロイドホルモンの微量定量が開発され、CやHラベル化合物を用いたトレーサー実験が出来るようになったので、テストステロンが正常や癌の前立腺でどうなるかをみた結果、ジヒドロテストステロンに代謝されて作用することがわかりました。この阻害は現在前立腺肥大症治療薬になっております。Population Councilの奨学金をいただき、アメリカボルチモア市のJohns Hopkins Universityで2年間Donald Coffeyその他と前立腺の研究をしたのち、昭和50年から平成8年の退官まで、千葉大学にお世話になりました。臨床では泌尿器科領域の診断、治療のレベルを教室の先生方と一緒に発展させることにつとめて、人並みと同等にできたとおもいます。また放射線医学総合研究所の共同研究に加入させていただきました。現在同施設の前立腺癌放射線治療数は世界でトップクラスです。研究面では前立腺癌



のアンドロゲン依存性をはじめ、排尿機能、男子不妊症、その他各泌尿器科分野の研究がすすめられました。

つくばに根を下ろして

小 形 岳 三 郎 (昭33)

平成25年春の叙勲で、瑞宝中綬章を拝受いたしました。かかる栄誉を賜ったのは、一重にご指導を受けた先生と先輩および長い間支えてくれた同僚のお蔭であります。先輩達の恩徳に感謝しながらこれまでの道をふりかえっております。

昭和33年に卒業後、教育熱心で有名だった滝沢延次郎先生の門をたたき、病理形態学の手ほどきをうけ、病理学の世界に入りました。毎日病理標本を抱えて教室に入るとき緊張感50年以上たつても忘れられませんが、昭和38年出来たばかりの肺癌研究施設の香月秀雄先生のもとへ走り、亥鼻の連絡道路にあつた石炭小屋を研究室にして、井出源

ゐのはな同窓会のみすますのご発展を祈念いたし、また泌尿器科教室もよろしくお願いいたします。

四郎先生と共に肺癌の病理研究を始めました。昭和43年米国での留学に旅発つ際、「どうしよう石炭置き場の君が敵国に行くか」とおっしゃって羽田空港まで見送つて下さつた香月先生を忘れることができません。当時ワトソンがDNAの構造を発表してから既に15年過ぎていて、病理学の分野にも分子生物学が入りだした時期でした。米国では病理学の教室にも形態学者以外の研究者が半数以上いるのを見て、我が国との差を実感したものです。同時期に米国留学中だった多田富雄君がサプレッサT細胞の最初の発表をしているのをアトランタの学会で聞き刺激を受けたのを思い出します。

帰国してみると大学は一変し、大学紛争後の混乱の中にありました。全国的に大学の仕切り直しの時期にさしかかっていました。期を一にして、国では科学立国を目指して、筑波研究学

園都市構想がきまり、その一つとして筑波大学の設立が企画されました。この新設の医学部スタッフとして、私は、内科の東条静夫先生、社会医学の藤原喜久夫先生、外科の岩崎洋治先生、脳外科の牧豊先生、神経科の小泉準三先生という大先輩達と共に最初に発令されました。その後40名内外の若い先生方が千葉から筑波にぞくぞくと参加されました。筑波大学は全国的に荒れ狂つた大学紛争後に開学されたことでもあり、文部省はすべて新構想の基をつくる必要がありました。筑波大学の開学が迫ると、私は医学部開設準備室教官として任命され、東京文京にあつた大学準備局にて数名の先生方と連日筑波大学新構想をねらわれました。従来の医学部の組織を教育と研究に分離、教室と医局の廃止という旧来の医学部を根本から改革することが前提で議論がすすめられました。教室・医局の中で育つてきた私どもにとつて、頭の切り替えが大変でした。この大学改革案は、「筑波方式」と悪評でしたが、その後次第に他の大学にも影響を及ぼしました。

昭和50年度には、筑波の原野に移り大学の建設が始まると共に、先に建てられた施設の部屋を借りて、第一期生の教育がスタートしました。昭和55年以降に大規模な建設が始まり、やはり大学紛争のきつかけとなったインターン制度の廃止に代わつて、米国の制度を参考にレジデント制度を開設しました。これが現在の研修医制度の先駆けでした。これを機会に私は病理医の養成機構として病理レジデント制度を設立し、我が国での病理医の臨床医学での位置付けを明確にしました。その後、筑波の病理は、小島瑞教授のリンパ腫病理グループと中村恭一教授の胃癌病理グループが加わつてからはにぎやかになりました。私どもは肺病理を看板に大学院の学生や病理レジデントの若者とともに、研究に明け暮れました。大学開設以来研究生活に入れなかつた私にとつては一生で一番楽しい時期でした。20世紀後半は、遺伝子レベルの病気の解明が、世界の流れになつた時代でした。病理形態学より育つた私にとつては、毎日が新しい分野への挑戦でした。筑波大学での生活も残り少なくなつた時点で、また、大学づくりの仕事に携わることになりました。平成時



代に入ると、我が国に少子高齢化の波が押し寄せ、医療介護の見直しの時代に入りました。同時にチーム医療の大きな担い手である医師以外の医療人の教育の立ち遅れが問題になりました。岩崎洋治先生を中心に医療技術者を育てる大学を茨城県で作ることになり、「もう一度、一緒に大学づくりをやりようよ」と誘われ参加しました。岩崎先生にとって

は末期肝がんを身に抱えながらの人生最後の挑戦でした。最初の入学式に大学病院の重症病棟から車いすで出席された先生の姿を今でも忘れることはできません。私は翌平成8年筑波大学を去って、岩崎先生の形見となった県立医療大学の運営に従事することになりました。看護師、放射線技師、理学療法士、作業療法士といった医療技術者の教育の在り方を模索しました。お蔭で茨城の県立医療大がその魁となり、その後、看護系大学の新設が全国的ブームとなりました。私は平成13年に、軌道にのった大学をみて退職しました。

その後、やはり同門の東条静夫先生が筑波大定年後築き上げた筑波学園病院が、私の最後の仕事場になりました。東条閣下と呼ばれて

怖がられていた東条先生も、私が学園病院に移った時は、脳梗塞で闘病生活を送っておられ、先生の病室にお見舞いするのが私の日課でした。現在、病理医として地域医療に携わりながら、看護学校にて教育のお世話をしているや10年を超えました。八十路を迎えて振り返ると、伝統ある亥鼻の

学び舎で育てていただいた後、大学教育制度の改革という時代の要請に添えて、亥鼻の先輩達とともに新しい大学づくりに明け暮れた一生でした。今はもうお目にかかれなくなった先輩たちのご冥福を祈りながら、亥鼻医学の真髄である「兼愛無私の精神」を若者に伝えるながら暮らしております。

瑞宝中綬章  
叙勲のご挨拶



2003年の春に思いがけずも紫綬褒章をいただき、それから10年後の今春、勲章をいただきました。勲章という響きはその歴史的事情から、あまり女性には馴染みのないものと考えておりましたが、時代の変化なのでしょう。

大学院を満了の1968年に本学の文部教官助手(現、助教)に就任、2003年の退官までの45年間文部教官として勤めさせていただきました。この間の教育、研究にわたる功労と

安達 恵美子 (昭37)

しての荣誉とこのことですが、先輩、同僚、後輩をはじめとする皆様様の暖かいご支援の賜物として、謹んで戴いてまいりました。その喜びをわかち合いたいと思っております。

幸いなことにこの間、オランダのロッテルダム大学、ドイツのマックスプランク研究所、スイスのチューリッヒ大学、アメリカのバスキュームバルマー研究所に合作して8年の他流試合も経験できましたのも、皆様の寛大なご協力があったることと深く感謝しております。今は皆様にご厄介になっている毎日ですが、何等かの形でお役にたてればと模索致しております。

旭日双光章  
叙勲されて



本年春の叙勲で、元大和市医師会長として旭日双光章を授与され、5月1日に県庁で県知事より勲章を伝達され、5月10日に皇居で天皇陛下に拝謁して参りました。

平成11年度から16年度の6年間、市医師会長を務め、その任期中に前会長と前々会長が叙勲されて居ります。小生が医師会長就任当時、市医師会館は事務局として、また休日夜間急患診療の場として使われて居りましたが、急増する患者数に対応できる広さが無く、医師1人での診療スペースしかありませんでした。また、休日夜間急患診療は医師会事業として発足しましたが、小生会長就任当時には市町村に課された事業になって居りました。以上のような経緯がありましたので、会長に就任すると直ぐ、市当局に旧医師会館内の諸施設の移転・拡

小野寺 美津雄 (昭33)

充を求めました。会長2期目には、この件が市議会の議題となり可決され、3期目に建築デザインの公募が始まり、デザインも決まった時点で小生の会長任期は終わりました(会長選敗退)。しかし、会長退任後の2年間で会館建築もデザイン通りに建てられ、現在の「大

和地域医療センター」となって居り、余裕を持って患者数に対応できて居ります。最近になって、過去に現地域医療センター建設に反対していた一団も、この存在価値を認めて居るようです。この度の叙勲は、市医師会長時代にすべきことはしたと認められての結果かと喜ばしく思っているところです。

瑞宝双光章  
叙勲を受けて



本年5月春の叙勲で瑞宝双光章を頂きました。早速なのは同窓会誌より原稿依頼が参りましたのでご報告させていただきます。私は昭和28年大学卒でインターン後、千葉大耳鼻咽喉科北村武教室に入局し、昭和30年4月副手、昭和33年4月助手、昭和35年館山市医療法人山崎病院耳鼻咽喉科勤務、昭和37年本位田

本位田 泰介 (昭28)

耳鼻咽喉科医院を地元館山に開設、現在に到っております。叙勲の理由は長年にわたる学校医としての勤務が対象となったと聞いております。平成3年には千葉県学校健康教育関係顕彰、平成22年、千葉県教育功労者表彰、平成23年、文部科学大臣表彰(学校保健功労)等を頂きました。

その他、私が社会的な仕事を何かつたと思えば、団体歴として昭和45年安房医師会理事、昭和59年安房医師会副会長、62年会長となつて、医師会活動、及び

安房医師会病棟の運営発展に努力したと言ふことです。昭和45年当時の安房医師会活動と言えは医師会病院を中核にして自治体と連携した胃集団検診事業でした。医師会員は受診率を上げる為に早期胃癌除去の普及啓発の説明会を各地区に出張して行いました。そして胃集検から各種総合検診へと発展して行つたのです。この医師会、自治体、住民の輪が大きく回転して行き安房の地域医療に大いに貢献したことは間違いありません。

この医師会病院は千葉大学及びるのはな同窓会出身の先生方の支援と活躍により149床の開放型病院として発展してきました。しかし、平成20年に経営破綻し地元総合病院に移譲され、地域医療センターとなつて新たな道をたどることになりました。

世の中は常に変革していくのが天の理ですが、長い間の学校医及び開業医として暖かい友と気持ちの良い患者さんに恵まれ、又家族の支えがあつて幸せな晩年を生きた乍ら感謝の気持ちでいっぱいです。



# おののはな同窓会賞 受賞によせて

社会貢献賞

永井医院

永井友二郎(昭16)



このように、病人の人間全体をよくみる科である故に、臨床のすべての科の中心なのです。」と教えて下さいました。

また、川喜田愛郎教授は、その名著「医学概論」で次のことをきびしく指摘し、私たちが指導して下さいました。「君たちがいま学んでいる医学がはらんでいく大きな危険は、人間が病むという事実を、医学の型紙に合わせて裁断し、病人を病院や医師の都合に合わせて診療するという誤りを招きやすいことである。」と。

私はこのお二人の教授の教えにつよい共感を覚え、自分が病人だったばあいを考え、人間性のある医師になりたいと考えました。

成田赤十字病院の勤務医師時代、病院勤務ではこの病人中心の診療に徹すること、に困難を感じ、昭和32年、自宅での開業を致しました。

そして当時、わが国の開業医に、研究会も学会もなかったことを発見。昭和38

昭和20年、戦争から帰った私たちにたいし、堂野前教授は次のように教えて下さいました。「君たちが学ぼうとしている内科というものは、病人のからだを頭のさきから足のさきまでよくみるだけでなく、その病人の生い立ち、いまだんな生活をしているか、どんな考えをもち、どうしてほしいと思っているかまで、その病人の人間全体をよく理解して診療する科です。内科

年2月、「実地医家のための会」を発足させ、昭和53年6月には日本プライマリ・ケア学会を立ち上げました。この日本プライマリ・ケア学会は大きく発展し、現在、日本プライマリ・ケア連合学会として日本医学会の大事な医学本道の役割を担うに至りました。

さらに、厚生労働省は将来のわが国の医療体制における総合医の重要性から、医学教育体制における総合医の育成重視に動きはじめています。

以上のごとく、わが国の医学界、医療行政が大きく方向を転換する原動力に、わが千葉大学の堂野前教授、川喜田教授の教えがあったことは、私どもの大きい誇りと考えています。

最後に、この「実地医家のための会」と「日本プライマリ・ケア学会」の活動に、本会の前会長渡辺武先生がつねに私の左腕として大きい活動をして下さってきたことを申し添えます。

昭和16年12月 千葉医科大学卒業  
昭和17年1月 海軍軍医中尉  
昭和20年12月 千葉大学医学部第二内科入局  
昭和24年4月 学位授与

昭和25年9月 成田赤十字病院内科医長  
昭和32年11月 永井医院開業  
昭和38年2月 実地医家の最高優功賞受賞

社会貢献賞

東京女子医科大学八千代医療センター

病院長 寺井勝(昭53)



1トを2006年12月に切りました。当時の八千代医療センターは野戦病院的な忙しさがあり、それでも「よりよい医療の提供」を志す医師による気概が溢れ溢れしていました。決して、順風満帆ではありませんでしたが、病院の基盤が開院2年で出来上がり、3年目の2009年4月に私が病院管理者(2009年〜現在)となり、佐藤二郎副院長(昭56)や船津英陽副院長(北里大・昭58)とともに、伊藤・杉岡路線を引き継ぎました。2011年4月には、橋本尚武副院長(昭55)、新井田達雄副院長(東京医大・昭56)、鎌倉里美副院長(看護局)が執行部に加わり、2013年4月に、これら執行部が再任されています。2009年に千葉県地域災害拠点病院の指定を受け、2011年には千葉県地域医療支援病院の名称を許可されました。また、千葉県のがん連携拠点協力病院(胃がん、大腸がん、肺がん)に指定され、高齢者社会を見据え、成人病、がん治療、在宅医療、緩和医療にも力を注いでいきたいと考えております。わたくしは小児科医ですが、外科系医師とジョイントする小児

2013年4月に東京女子医科大学八千代医療センター(355床、34診療科)は7度目の春を迎え、人生に例えれば晴れて小学校入学を果たしたことになりました。この記念すべき年に、当院がなのはな同窓会社会貢献賞を受賞することが出来ました。この賞は、名誉院長である伊藤達雄先生(昭42)や前八千代市医師会長である杉岡昌明先生(昭37)、そして、多くの医師・看護師・職員の努力が結実した受賞です。同時に、わたしどもにとってひとつの区切りともなりました。実は、受賞式の数日前に、法人として正式に501床計画を承認し、八千代医療センターがいよいよ第二ステージに向かつて進むことになったからです。埼玉県と千葉県を併せて1300万人人口ですが、医学部は埼玉医科大学、防衛医科大学、千葉大学の3校に過ぎず、ほぼ同じ人口を有する東京には11校、九州には10校の医学部が存在することを考えれば千葉県や埼玉県と東京の医療格差は厳しい現実があります。さらに、当院が位置する東葛南部二次医療圏(6市人口171万)は日本を代表する人口密集地域で、その医療圏に位置する八千代市には基幹病院がありませんでした。そのような背景のなか、当時の八千代市医師会の杉岡昌明会長と伊藤達雄初代院長が医師会と病院が連携する地域医療モデルを掲げ、病院、八千代市当局、八千代市医師会、市民、これら4者による運営協議会を設置、市民が誇りに思う地域中核病院としてのスタ

の総合医療体制と小児医療者の育成を目指してきました。千葉県総合周産期母子医療センター(2007年)や千葉県全県対応型小児連携拠点病院(2008年)に指定され、2013年には日本小児総合医療施設に指定されました(千葉県では千葉県こども病院に次ぎ2番目)。現在、周産期・小児病床は124床(NICU15床、PICU10床、MFCU5床)より成り、今年度から小児の心臓血管外科診療が立ち上がりました。産科麻酔科、小児麻酔科も設置され、千葉県こども病院とは異なった総合病院設置型の小児・周産期センターを目指していく所存です。

2011年3月に発生した東日本大震災において、当院は災害拠点病院にも関わらず、計画停電を7日間に亘り経験致しました。八千代市、医師会と連携し、八千代市の防災対策を強化しておりますが、災害拠点病院を長期に停電させる国の危機管理のなさ、無計画さを国にも訴えてきました。一方では、千葉県チームに加わり、陸前高田市の重急性期の医療支援、更には、宮城県知事の要請のもと、佐藤二郎手術部長を中心に気仙沼市や本吉市の医療支



援を2012年末まで行ってきました。小児科では2012年から秋田県仙北市の医療支援を行っております。

わたしたちが大切に思う医療活動を行っていくためには経営的にも自立しなければなりません。2012年3月に、国は高密度診療病院(DPCH群)を全国で90病院選定し、歴史ある千葉県がんセンターや船橋市立医療センターとともに、立ち上がったばかりの当院も指定を受けることが出来ました。職員のモチベーションの高さに加え、2011年度から黒字に転換したことも指定に繋がった要因と考えられます。

職員がモチベーションを持って働き続けるためには、院内の連携、働きやすさなどの労働環境が整備され、職員が八千代医療センターに愛着をもてるような運営が管理者に求められます。医師の定員には総定員制を導入し、必要な部・科には人材を採用しやすいようにしました。病院は、ひとつの医局として横の連携を重視し、現在、165名の医師が在籍しております。また、24時間営業の職員保育所、図書館、院外薬局を設けています。なかでも、

八千代市薬剤師会の協力のもと、24時間運営の院外薬局が近隣にあり全国でも珍しい取り組みです。年間26000人の救急患者を受け入れる当院にとっては、深夜の院内処方箋発行の負担が軽減されています。さらに、セキユリテイ対策には万全を配っています。八千代市警察とも連携、暴漢対策も月に1度の講習会を院内で実施し効果を挙げています。不審者が入り込まないように、セキユリテイカードによる訪問者の移動制限をおこなっています。

節電、ゴミ対策、環境美化についても当院の評価は高いものがあり、多くの病院関係者や市長の訪問を受けています。最後に若手人材育成に触れたいと思います。当院は、開院以来、総合研修プログラムを現在も継続している県内でも数少ない臨床研修指定病院です。プログラムでは、内科6箇所、外科3箇所、救急科2箇所、麻酔科2箇所、小児科2箇所、産婦人科1箇所、精神科1箇所、地域医療1箇所のすべてが必修科となっております。従って、選択期間は6箇所しかありません。6期生(定員10)がこの4月に入職、開院以来の研修生の

約3割が千葉大学卒で、千葉大学の学生にも一定の評価を得ているものと考えております。RENKEIを医療コンセプトとする横断的医療モデルは研修医に評価が高く、かれらが生き生きと働いている姿を頼もしく思います。今後も、大学病院と市中央病院の特色を併せ持つハイブリッド大学病院としての研修を一層充実させ、若い研修医が社会人として、医師として成長する基盤づくりを支援していきたいと思っております。

わが国は超高齢化社会に向かっています。団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題を前に課題が山積しております。しかしながら、八千代市医師会(前木村淑志会長・順天堂大・昭38、椎原秀茂会長・昭52)と協力することで、住民が誇りに思う医療を提供出来るものと確信いたします。そして、母子医療にも継続して貢献していきたいと思っております。

最後に、2013年9月現在、当院所属のものはな会員に敬意を表し、氏名(敬称略)を掲載させていただきます。

謝辞・ファンディングメンバーの一員でリウマチ・膠原病内科の科長として活躍されました、中川典明先生(昭60)が2013年1月1日に肺がんのため逝去されました。謹んで、先生のご冥福をお祈りいたします。

最後に、2013年9月現在、当院所属のものはな会員に敬意を表し、氏名(敬称略)を掲載させていただきます。

- 糖尿病・内分泌代謝内科：橋本尚武(科長)、荻野淳、米田(唐澤)千裕
- 呼吸器外科：関根康雄(科長)、黄英哲、畑敦
- 小児科：寺井勝(科長)、濱田洋通、吉田雅樹、松井拓也、徳武翔子、木村翔
- 杉浦健太、下山恭平
- 発達小児科：林北見(科長)
- 小児集中治療科：本田隆文

社会貢献賞

どうたれ内科診療所 堂垂伸治(昭60)



この度、歴史と伝統あるものはな同窓会から社会貢献賞を頂き、大変光栄で感謝・感激しております。私が頂いた受賞の題名は「(独居)高齢者を地域住民とともに見守る」(1人暮らし)「あんしん電話」システム(以下「あんしん電話」)です。現在、全世帯の10件に1

安川久美 新生児科：佐藤雅彦 小児外科：幸地克憲(科長)、松岡(大澄)亜記、矢部清晃 救急科：貞廣智仁(科長)、黒田泰久、廣瀬陽介、木村友則 麻酔科：佐藤二郎(科長)、田中敦子 病理診断科：廣島健三(科長)

卒後研修センター：川口雄之亮、韓元泰、鈴木克也、平野瑠子、榎本悠里、出口薫太郎、吉井聡美

件が「独り暮らし高齢世帯」です。今後の超高齢社会の進行とともに、これがさらに6~7件に1件に増えていきます。2035年には、全国で762万人の独り暮らし高齢者が生じると予測されています。現状でも、日常生活や地域のケア会議などで対処困難事例の過半は独居高齢者です。これには私何とかが有効な方策はないかと考え、07年2月から工學院大学と共同で「あんしん電話」を開発してきました。これは診療所に設置したパソコン(以下PC)に予

め独り暮らしの方の電話番号を登録しておきます。PCは患者さんと約束した日時(毎週1回)に、私が事前に録音した声で定期的かつ自動的に電話をかけます。患者さんは、プッシュホン式電話で「Xのあとに1(または2、3)」とボタンを押します。この番号は、それぞれ「問題なし」「体調不良」「要連絡」と約束しています(この番号ごとの約束事は、例えば「4が買物依頼」「5が便利屋さん」とする事も可能です)。

回答結果は、PC画面に一覧表で色分けして表示されます。発信側(診療所側)はPCを立ち上げこの「回答結果一覧」を見れば、受信側(患者さん側)の健康状況や安否が一目でわかります。心配な方には別途個別に電話連絡し相談に乗り指示します。

この機器は初期導入費用が約50万円です。しかし、約80人を管理して発信側は月々7千円程度の費用で、受信側の負担はゼロで電話代も発生しません。「費用対効果」に優れ、1台(1箇所)で200~300人規模まで管理可能です。また、予め録音した音声での問い合わせなので、お互いに気疲れせず気兼ねもありません。

救急対応するものではありませんが、「緊急通報装置」が1人当たり年間約4万円かかる(多くは税金が投じられている)の比べ、はるかに合理的で安価で持続可能なシステムです。

この「あんしん電話」は現時点で、全国で6地域、松戸市内では8地域に導入され独り暮らしの方を中心に約600人の方々を対象に稼働しています。12年末には松戸市医師会から「後援」を頂いておりますが、まだまだ浸透は不十分です。今後急速に高齢化するのは都市部で、特に「埼玉・千葉・神奈川」の首都圏問題などと言われております。現在でもUR(団地)などは高齢化率40%、独居率30%という地域もあり、今後の超高齢社会を先取りしているとも言えます。

私は「独り暮らしになっても安心して住める街づくり」に寄与したいと考え、微力ながらこの「あんしん電話」を活用・拡大し、今後も「地域を守る」という意識で多様な活動を企画しております。最後に同窓会の方々ならびに関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



### 各地ののはな会 だより

#### 第13回 東京ののはな耳鼻科医会

平成25年5月16日夕にJ R札幌日航ホテルにて、東京ののはな耳鼻科医会（幹事・笠井創（昭52）、中村宏（大阪医大・昭59）の先生方と東京女子医大耳鼻咽喉科の医局合同で、吉原俊雄教授（昭53）の第114回日本耳鼻咽喉科学会総会（札幌市）宿題報告祝賀会と第13回東京ののはな耳鼻科医会を兼ねた会が開催されました。

吉原俊雄教授が5月16日の総会で宿題報告「唾液腺疾患の病態解明と臨床」というテーマで講演され、唾液腺の解剖・発生、病理、唾液腺腫瘍の手術成績、未解決な疾患である木村病、唾液腺症、線維索性唾液管炎や新しい概念の疾患である「SSS」関連唾液腺疾患など、幅広い研究と臨床検討が発表されました。会員からは大きな反響が得られていました。

唾液腺の宿題報告は昭和31年に同じ札幌の地で、千葉大学の故北村武教授が報告されてから60年近くが経過しており、偶然にも札幌



での発表となりました。参加したののはな先生には、千葉大学解剖学教室（永野俊雄先生、嶋田裕先生）とともに学んだ先生も多く、なつかしい唾液腺のスライ

ドも披露されていました。神田敬先生（昭35）の祝辞のあと、女子医大元教授、臨床教授、医局長、堀内正敏先生（昭45）、夜久有滋先

#### 江戸川ののはな会

平成25年5月25日（土）午後6時から墨田区にある第一ホテル両国「楓」にて

平成25年度江戸川ののはな会総会が開催され、15名の出席を頂きました。また、千葉大学大学院医学研究院神経内科助教である三澤園子先生による「糖尿病によ



る神経障害・明日の診療に生きる診かた」と東京慈恵会医科大学麻醉科学講座教授である下山直人先生による「緩和ケアの状況と今後の展望」の講演をして頂きました。講演を通じて、糖尿病の恐ろしさや緩和ケアの必要性を改めて感じる事ができる良い機会となりました。その後懇親会へと移り、各々の近況などを語り合い盛会のまま総会は終了しました。

まず会長の松清央（昭43）から挨拶があり、昨年度、三枝一雄（昭32）が秋の叙勲（旭日双光章）を受けられたことが報告された。昨年ご逝去された、佐野隆先生（医専20）に黙祷を捧げた。続いて事業報告、会計報告、会員の動向報告がなされた。

写真右から  
前列・藤山嘉信（昭30）、神山一郎（昭24）、下山直人先生（昭57）、小野健次郎（昭39）、三澤園子先生（平11）、伊谷昭幸（昭30）、一志典夫（昭25）  
後列・岩倉弘毅（昭37）、岡本和久（平2）、竹内孝治（平3）、岡田吉弘（平2）、波多野良二（平3）、山田泰司（平7）、小島博之（平3）、道下崇史（平15）  
（岡本和久）

講演会には麻醉科学の教授になられた磯野史朗先生においでいただき、「臨床医に必要な睡眠時無呼吸症候の知識」の御講演を頂いた。先生が携わってきたSSSの話題を楽しく判りやすくご紹介頂いた。SSSは全ての科に関連する疾患であること、我々自身にも覚えがあることなど興味深く拝聴した。また、千葉大学の現況では、麻醉科を取り巻く状況について説明して頂いた。懇親会は、研修医や若い医師にもたくさん参加して頂き、君津中央病院名譽院長の唐木清一（昭28）の乾杯で和やかに行われた。教授は当地区、君津中央病院とも縁が深く、昔話などに花が咲いた。最後は木更津の街に繰り出し夜更けまで飲み明かし交歓の場を持った。

#### 君津木更津ののはな会

平成25年6月11日木更津市の東京ベイプラザホテルで地区同窓会の年次総会が開催された。当地区は109名の会員を数えるが、今回は38名の出席をみた。

写真右から  
前列・青柳博（昭49）、磯部勝見（横浜市大・昭43）、福





山悦男(昭36)、三枝一雄(昭32)、磯野史朗(昭59)、松清央(昭43)、唐木清一(昭28)、片海七郎(東邦大・昭40)、田中弘一(昭42)、山田勝巳(昭40)  
 二列目：岡陽一(昭56)、李元浩(昭53)、鈴木紀彰(昭50)、土屋俊一(金沢大・昭51)、田中寿一(昭43)、野村明(愛媛大・昭60)、吉野めぐみ(平25)  
 三列目：秋間雄策(平24)、古閑啓二郎(昭54)、永薫(昭56)、水見寿治(昭55)、清水弘則(平4)、武田健治(平25)、弓手惇史(平25)、伊藤祐輝(千葉大学生)  
 四列目：櫻井健一(平4)、加藤大介(昭62)、木村博昭(滋賀医大・昭58)、竹内修(東海大・昭61)、畦元亮作(昭58)、河木潤(島根医大・平3)、北村伸哉(平元)

**千葉県おののはな会 平成25年総会開催**  
 平成25年6月29日(土) 15時30分から、16時まで「三井ガーデンホテル千葉」を会場として平成25年の千葉県おののはな会総会が開催された。今年はおののはな同窓会の総会も千葉支部が担当であり、同日同会場にて相次いで開催されることとなった。  
 式次第  
 司会(秋葉)  
 会長挨拶 三枝一雄会長  
 議長選出 栗原副会長が仮議長となり、三枝会長を議長に選出  
 議事  
 ①平成24年度事業報告  
 ②平成24年度会計報告(阿部)  
 ③平成24年度監査報告(加藤)  
 ④平成25年度事業計画案



⑤役員交替報告  
 ⑥千葉県おののはな会則変更の件  
 ⑦新事務職員紹介  
 開会の辞が述べられた後、三枝一雄会長の挨拶に続き式次第に則して進行された。事業報告及び会計監査までは出席者全員に承認された。今年度から、千葉大学のおののはな同窓会役員に黒木春郎理事(昭59)、監事に田中弘一理事(昭42)、会計理事に秋葉哲生理事(昭50)の就任がそれぞれ承認され、より活発な同窓会活動に尽力



**安房おののはな会**  
 平成25年6月12日(水) 午後7時より、近隣病院で活躍する同窓生を講師に招いて、安房おののはな会が緑川で開催されました。今回は君津中央病院救急救命センター長の北村伸哉先生(平元)をお迎えして行われました。  
 安房おののはな会会長青木謹先生(昭36)の開会の挨拶に引き続き、北村先生の御講演に入りました。北村先生のお話は、御専門の救急医学と航空医療の分野から、特にドクターヘリについて、その千葉県内の状況についてでした。千葉県は人口当たりの医師数が少なく、安房地域はまだまじな方だそうですが、重症救急患者の搬送時間が長いかかってしまうことや、特に多発外傷や脳卒中の患者の他地域への搬送がどうしても必要となってきたことなど、ヘリの必要性・重要性が明らかになりました。導入から現在までのドクターヘリ

いただくこととなった。会則に関して主として第3条会員条件の卒後10年以上を削除する旨秋葉理事より提案され、了承された。高畑真弓氏が千葉県おののはな会の事務担当職員として紹介承認された。木元博史理事(昭61)の開会の辞をもって無事に総会の幕を閉じた。詳細は平成25年度千葉県おののはな会関係誌にて報告する。  
 (秋葉哲生)



の出動状況はかなり増えてきたようですが、まだ十分ではないようです。特に、ドクターヘリとは救急専用設備を持ったヘリコプターであること、救命救急センター敷地内に常駐しているヘリコプターであること、医師・看護師が迅速に出動できる（3〜4分で医師と看護師がすぐ乗って出かけること、即ち、翼をもった救急救命室であることなど、感銘を受ける内容ばかりでした。しかし、ヘリの運航費用や医療クルーの養成の問題、夜間運航の是非等、解決すべき課題があるのも事実で、問題も多いたのこ

とでした。その後、部屋を移し全員で北村先生を囲んでの記念撮影を行った後、本位田泰介先生（昭28）の「乾杯」の御発声で懇親会に移りました。懇親会の席でも先生は気さくに会員とグラスを交わし、諸先生方と親睦を深め大いに語り合っていました。皆とても楽しい時を過ごしたと思います。その後、北村先生と有志の先生方は二次会へと繰り出しました。

写真右から  
前列・原久彌（昭34）、青木謹（昭36）、北村伸哉（平

元）、本位田泰介（昭28）、西川義明（昭34）  
二列目・本多満（昭37）、水谷正彦（昭52）、関谷信平（昭38）、林宗寛（昭60）  
後列・武内重樹（北里大・昭53）、辻博勝（平2）、伊賀寧（聖マリ医大・平2）、渡辺啓治（昭61）、天野晋（平3）  
（天野 晋

### ク ラ ス 会

#### 平成二年卒業生同期会

同期で初の教授が誕生したのをきっかけに始めた同期会も、その後数年連続して開催されて恒例行事と呼べるほどに定着してきました。平成25年3月16日、今回は二十二名の旧友がなん

と風呂屋に集いました。浅草の「まつり湯」といういわゆるスパ・銭湯の宴会場です。趣向を凝らしたと、いうよりも一風変わった会場設定でしたので準備段階においては幹事として若干の不安もありました。しかし蓋を開ければ大盛會。出席者の多くは開会の前に湯につかりリラックスできて卒後二十年以上経っていることを感じさせない雰囲気



での再会が楽しめました。このところ同期からは毎年教授を輩出しています。今回は中里道子さんが千葉大学大学院医学研究院附属子どもこころ発達研究センター特任教授に就任し、そのお祝いも予定していたのですが残念ながら当人は出席できませんでした。しかし出席したその他の面々も各々の道で素晴らし活躍をされていて、互いに

刺激しあい、また連携できる同業者として絆を一層強めることができた実感です。最後に会場正面に聳える東京スカイツリーをバックに（見えませんが）記念写真を撮り、次回の幹事を耳鼻科の渋谷真理子さん、鈴木敏幸さん、根本俊光さん、仲野敦子さんにバトンタッチして閉幕となりました。写真右から

前列・小林信雄、清水栄司、老沼和弘、岡田吉弘、根本俊光、仲野（柳田）敦子、小林信義、渋谷真理子、国富（本郷）由紀子、澤野聡志、神川康也  
後列・鈴木敏幸、中川晃一、黒田徹、尾辻瑞人、鶴梶実、斎藤功、大淵徹、浦島哲郎、岡本和久、村越直人  
（岡本和久、岡田吉弘

#### 昭和49年卒とその級友の同窓会

平成25年3月17日、千葉県全体が知事選挙でざわついている中、「千葉大学医学部昭和49年卒とその級友の同窓会」が千葉市内の京成ホテルミラマールで行われました。

まず、「昭和49年卒とその級友の同窓会」という名称について説明したいと思

ます。実は、昭和49年卒業生は84名しかいません。というの、千葉大学医学部では昭和47年の冬、当時の学部4年生（47年卒）が卒業ポイコットのストを決定しており、学部2年生であるわれわれはその支援ストを行っていました。しかし、突然学部4年生がストを解除、卒業試験を受けることになったため、支援ストを行っていたわれわれは宙に浮

き、ストを継続するか否かについて急遽クラス会を開き、長時間の議論の末、明け方になってスト解除という結論を出しました。それからが大変で、一週間後に試験が行われることになったため、大学に来ていない同級生に手分けして連絡をとり、あわただしく試験を受けることになりました。

結果、学2から学3へのバリアに引っぱり大量の留年者を出し、さらにそれが尾を引いて積み残した科目を卒業までに修得できなかった者もいて、49年卒の同期が非常に少なくなったわけです。以後、49年卒のクラス会は卒業年にこだわらず、われわれと少しでも一緒に学んだ級友に広く声をかけ、会の名称を「昭和49年卒とその級友の同窓会」としております。

今回の同窓会はホテルでの宴会の前に亥鼻キャンパスツアーを計画し、約20名の人たちが参加しました。午前11時半に千葉大学医学部附属病院1階ロビーに集合し、2グループに分かれてそれぞれ田邊政裕君（千葉大学医学部医学教育研究室）と佐藤武幸君（千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部）の案内で、懐かしくもあり、また大きく様

変わりした附属病院の見学や亥鼻キャンパスの散策を満喫し、十分に感慨に浸った後、バスでホテルに向かいました。

さて同窓会の出席者ですが、前回の開催が2008年9月と4年半前であり、また皆還暦を迎えて昔を懐かしむ世代になってきたということもあってか、58名（116名に連絡し、59名が参加希望、1名が当日欠席）と多くの級友が集まりました。参加者が多いため全員のスपीチは無理ということで、受付時にくじ引きをし、「乾杯」「スピーチ1」「スピーチ2」「中締め」という紙を引いたものにそれぞれ役割を務めてもらうことにしました。また同時に全員近況報告を書き、これをホワイトボードに掲示しました。

同窓会（宴会）は午後1時半に代表幹事（田中）の挨拶で始まり、まずこれまでに逝去された級友（神山佳久君、金英哲君、高橋法昭君、張好雄君、西山徹君、山下道隆君、和田裕治君）の冥福を祈って黙とうをさげました。そして宴会です。坪井秀一君の軽やかな名調子の挨拶で乾杯が行われて楽しい会が始まり、その後、佐藤



武幸君が亥鼻キャンパスの風景写真をスライドで映しながら千葉大学医学部の近況を報告しました。さらに田邊政裕君が千葉大学医学部のルーツ(昭和49年卒は創立100周年卒)とあのはな同窓会の活動、更に最近制定された医学部のロゴマーク、信条について説明しました。

しばしの歓談の後、幸運にもくじを引き当てた小出博義君、入江氏康君のスピーチがあり、さらに幹事の独断で、遠路はるばる駆けつけてくれた増村道雄君(兵庫県)と山口英明君(愛知県)の両名に特別に近況報告をしてもらいました。和気あいあいのうち、話に花が咲きお酒も進んであっという間に予定の2時間が過ぎんとしましたが、ホテル側の計らいで少し延長可の許しを得ました。会も押し迫ったところ、まず皆で集合写真を撮影、その後、これまで独断で幹事が指名した渡辺博子君が次期幹事のくじを引き、有田正明、伊藤国明の両君に決定しました。最後は、斎藤万比古君による中締めで、次回同窓会での再会を約し、別れを惜しみつつお開きと致しました。

会裏に終えることができたのも、私的に幹事としてお手伝い頂いた浅井隆善、衣川直子、佐藤武幸、そして田邊政裕の4名の先方のお蔭と感謝いたします。

写真右から  
前列：杉田(図司)孝子、中村(沢野)文子、田中順子、渡辺(三井)博子、野村(藤江)恭子、田邊政裕、田中正、西野(郡)薫、田邊(川上)恵美子、入江(大橋)澄子、衣川直子、西山(藤原)真理子  
二列目：杉田洋一、土佐純一、酒巻(松沢)建夫、大塚裕、保坂泰昭、江原正明、菅野治重、三上恵只、山内一弘、佐藤武幸、高原善治、折居和雄、坪井秀一、増村道雄、青柳光生  
三列目：館野純生、菊池典雄、五月女直樹、山口英明、小浜知美、岩津都希雄、長谷川純、安東昌夫、奥村俊子、遠藤富士乗、浅井隆善、金子良一、佐藤茂樹、小出博義、吉田良平、中村哲雄  
最後列：入江氏康、小林裕夫、斎藤万比古、片桐誠、弓削一郎、南智仁、伊藤国明、田中秀之、有田正明、石毛憲治、青柳博、石川隆一、田中真、北野慎一郎  
(田中正)



山紫会 (昭34)  
卒後54年目のクラス会

平成25年3月24日、御茶ノ水「お茶の水賓館」で卒後54年を記念して昼食会を催した。昨年32名の参加であったが今回は28名、ほぼ50%の出席となった。上天気、見晴しのよい高層階からスカイツリーを眺めながら会長の松本博雄君の挨拶と乾杯。昨年度のクラスメートの近況報告があり、数年前日本外科学総会会長を果した鈴木博孝君の逝去の報告があつて黙祷を捧げた。既に約1/4が他界していることになる。傘寿を境に医療に頑張っている人、高齢者施設などで社会的応援を果たしている人、専門分野の力を若い人達の教育の場で伝えている人、長い間心臓外科、あるいはがんセンターで、消化器分野で長時間の手術に身を捧げて脊柱管狭窄症の痛みで杖を友として参加した3人の仲間がいる。

人生はるばると毎日が未体験ゾーンを歩む中、それぞれの暮らしぶり、健康の方法など学生時代の部活の活躍など賑やかで楽しい2時間であった。今年も公的大病院の再建請負人として植村兄の主に医療者側のや



る気を引き出した奇策の一部を開陳し、患者のための医療のあり方を変容させつつある様子を聞かせてもらう素晴らしいスピーチが目立った。来年も老いの繰り言のみでなく、老いitつも  
猶新しい世界を模索したい期待を込めて1年を過ぎたい。次回を約して散会した。  
写真右から  
前列：松本博雄、羽田忠、藤田昌宏、長尾佳子、清水



精子、飯田暢子、津金澤督雄、飯田静夫、吉川保雄、後列・(右より)伴野恒雄、石川克夫、齋藤篤、遠藤幸男、松原保、植村研一、荒木英爾、永井順、塩川喜之、野口徹男、小林充尚、矢野恒多、神田芳郎、高橋功、片山純男、吉井功、赤星至朗、谷嶋俊雄  
(神田、谷嶋)

参旧会 (昭39)

2013年度の昭和39年卒同窓会(参旧会)は5月18、19日に神戸市で行われた。今回は地元在住の林君と、かつて神戸で勉学を共にした計見、崎山、重松の4名を幹事として企画された。眼科を開業の林懐良(はやし)と改称されている)幹事夫妻に新神戸駅でお出迎えを受け、まず阪神・淡路震災記念館に向かい、画像、音響、振動のデモンストレーションで当時の様子を体験した。その激しい地震で灘酒蔵郷はいずれも壊滅的破壊を受けたが、再興され、その一つ「浜福鶴酒蔵」を見学した。同窓会総会はこれまた再建された「第一楼」で聞かれた。

君に黙祷を捧げた。林君の開会の挨拶では本年が卒後49年目で来年の50回記念の前夜祭とも言っべき機会と、神戸の再興を見聞するとともに、神戸のグルメを大いに味わってほしいとの言葉と乾杯の発声があった。ついで食事をしながら参加者から各人の現況について話を承った。伊藤君は「新のはな同窓会館」の建設が始まったが、資金不足で2期に分けた工事になり、新たに寄附金を募る必要があると述べられた。宴会には33名の出席者があったが、当日来られなかった旧友の近況なども紹介された。50回目の参旧会は京都で共にインターン生活を行った鈴木、塚田、深尾の3君が幹事となり京都市で開催されることになった。総会終了後近くの市庁舎の展望階から復興なった「百万ドルの夜景」を確認して宿泊地有馬温泉に向かった。

19日(日)は有馬温泉の赤色の「金湯」と透明な「銀湯」の朝湯を楽しんだあと新神戸に向かい、いくつかのコースに分かれて観光をし、来年の再会を期しつつ帰途についた。

写真右から  
前列・前列・計見夫人、山



下夫人、重松夫人、本村八恵子、高根健、三浦徹蔵、林懐良、伊藤晴夫、永山恵美子、遠藤夫人、林夫人、二列目・山口夫人、山本夫人、高根夫人、小野夫人、秋草夫人、山口正敏、上原朗、小野健次郎、遠藤毅、確井貞仁、山下武広、三浦夫人、塚田夫人  
三列目・大塚嘉則、大塚夫人、秋草克彦、重松秀一、山本弘、崎山樹、計見一雄、阿部一憲、塚田正男  
(重松秀一)

参旧会 (昭39)

昨年、七夕に卒後50周年記念クラス会を帝国ホテルで開催した。その際、新のはな同窓会から卒後50年生の各自に感謝状と記念メダル(獅胆鷹目以女手)を授与するという「卒業生サポートプロジェクト」の第1回生に選ばれるという名誉に浴した。大学より田辺教授が来会され、本プロジェクトの主旨説明と祝意のご挨拶と伝達式をして頂いた。この場を借りて、新のはな同窓会へ感謝申し上げます。  
私達は昭和37(1962)年卒業したので、新のはな37クラス会と命名しています。入学は昭和31年、国立

1期校千葉大学医学部医学進学課程、前年の30年より6年制の医進課程が設置されたので、入試の倍率は2桁の難関校であった。旧大が病院(私達はここの懐かしい階段教室、屋階の臨床講堂で臨床講義を受けた)から連絡道路を渡り、旧事務室前の掲示板に貼られた60名の合格者名簿の中に259番(自分の受験番号)を見付けた感激は今も忘れられない。個人的感懐で失礼。

しかし、今思えば、多くの仲間が家庭教師、学増(学力増進会)などアルバイト、クラブ活動、自治会・学生運動に時間を割いた進学課程、学部時代は激動の社会背景を反映して余裕なき学生時代であった。インターン後は始どの者が大学各科目医局に入局し、無給医局員を過ごした。縦割りで横の連絡は乏しく、必然的に37クラス会が生まれた。今の平均年齢は、喜寿。参加者29名、出席率約50%、欠席の4名は高校のクラス会と重なった。返信のない4名が気懸かりだ。欠席の殆どは闘病中、体調不良。  
司会は幹事岩倉君。昨年急逝した故堀口君を含め17名の物故会員へ黙祷後、遠距離参加の青森の福土君の

乾杯で定時開宴、今冬の6m?に及ぶ豪雪新記録を話した。久しぶりに出席の傘寿・佐々木君が続き、2年前3・11の旭市での自己・家族を含め介護施設入所者への緊急安全・避難対応へ挺身した話に感動した。郡山市の十林君は震災後若い勤務医の医療現場帰帰がなく、土曜午後まで診療を余儀なくされ、止む無く欠席と連絡あり、震災・原発事故復興の遅れがここまですべて腹立たしい。各自の近況スピーチは、心不全?で入院臨死体験・退院直後の状態を押し出してくれた沼津市中山君の提案で、行く末・余生の送り方、エンディングの仕方など死生観を聞きたいと、今までは医師としてヒトのcureの立場が主体であったが、careされる立場へ好むと好まざるに拘わらず移行している感を強くした。

加齢した自己が何らかの病を持ち、患者さんの身になれ、優しい医療・介護が期待出来るが、時既に遅しか?サーチユイン長寿遺伝子の発見、再生医療、新規創薬の近未来だが、われ等戦前・戦中派は十分にサーチユインが賦活されている筈です。幹事として、各テーブルへ参加の謝意を



表して、ビールを持って廻ったが、ノンアルコールビール、ウーロン茶、ジュースが多くなり、飲む主体は赤ワイン、いも焼酎をいれ加減に、医師として、自己管理宜しく、アルコールに酔って管巻く昔日の面影はなく静かで、スピーチにも



ビックマウスはない。嘗ての医学連闘士松江君は「ふくしま共同診療所」を市民の協力で開設し頑張っているが、諸兄弟は高貴？(後期)高齡者として自己完結的余生の送り方、平穩死を望む品格？風格？を感じた。

今後の人生をロスタイムととるか、アデクションナルタイムととるか各々各々様だ。宴の終わりに、コーラスに社会参加し活躍されている美声の油井真知子さん発声で、戦後流行した「リンゴのうた」(並木路子)を全員で熱唱した。フランス料理にオポジションとして握り寿司と日本そばの模擬店付き着席アフエのお行儀のよい高貴！高齡37クラス会は定刻8時にお開き、集合写真を取りバイ・土産に、来年の再会を約しおとなしく散会した。当日受付お手伝い頂いた石山学兄に感謝。『明年この会 健やかなる誰かを 知らんや』 杜甫

写真右から  
前列・杉岡昌明、中山博、福士和夫、佐々木守、油井信春、油井真知子、高井満、岩倉弘毅  
二列目・黒岩璋光、入枝幸三郎、高梨健治、柳沢健一郎、伯野中彦、奥山隆保、大野孝則、日浦利明、小野幸雄  
三列目・瀬川襄、土井修、中村嘉孝、小林總介、大原啓介、山根友二郎、吉川正宏、松江寛人、  
最後列・石山淳一、森豊、伊東治武、勝田貞夫  
(杉岡昌明)

ちよに会 (昭42)

毎年の恒例にしています42卒のクラス会である「ちよに会」を今年も開催しましたのでお知らせします。「ちよに会」はこのころは毎年6月の第1日曜日に開催することにしており今年も6月2日の日曜日に東京は芝のとうふ屋「うかい」で午前11時30分より行いました。

42卒の現時点での総勢80名中36名という、去年と全く同じ参加者数をえて定刻どおり開会となり、先ず昨年の「ちよに会」以後に亡くなられた牧邁君、小林絃一君お二人の冥福を祈り黙祷をささげました。次に守屋秀繁君の挨拶と乾杯の音頭により乾杯をして懇親会となりました。そのあと適当にアルコールが回った頃から順番に全員のスピーチとなり、それぞれにまだやっている仕事のことや、いろいろな趣味の話、この齢ならではの病気についての話があつて大変楽しい時間をすごしました。最後には来年の幹事の元真岡市長福田隼君の話をもって会は終了となりました。

写真右から  
前列・関(青木)三千代、川越(松田)和子、小柳朝明、片倉透、谷口克、石井従道、吉野紘正、龍野勝彦、大沼直躬、守屋秀繁、平賀一陽、更科廣實  
二列目・勝保剛志、門馬公経、宮本忠昭、西牟田敏之、河野泉、藤田優、小林茂雄、能勢(川井)晴美、冠木(佐



藤)敦子、森田(百瀬)喜崇子、伊佐治尚文  
三列目・福田武隼、太田東吾、高橋稔、忍頂寺紀彰、本多睦人、高崎健、森田清、伊藤達雄、矢崎浩、牧野英一、関隆郎、中島克巳  
(小柳朝明、森田清)



高カリウム血症改善剤 薬価標準収載  
ポリスチレンスルホン酸ナトリウム製剤  
**ケイキサレート® ドライシロップ 76%**  
本剤の「効能又は効果」「用法及び用量」「使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。  
SANOFI 鳥居薬品株式会社  
2013年7月作成



爾久会 (昭29)

千葉医科大学最後の私たちクラスは、定期的に毎年集まり、回顧談や現状を語っている。本年は6月16日(日)正午より、ホテルメトロポリタンエンドモンド(飯田橋)にて行った。級友23名と奥様2名が集まり、楽しくすごした。残念ながら

前回後逝去された石川和夫、大藤正雄、中村真、西三郎、三谷涛美の諸君の冥福を祈る黙祷から始まり、食事、お酒とおしゃべり、最後は2、3の寮歌で終了した。来年は卒業後還暦の年であり、盛会を約束して解散した。

写真右から

前列：長谷川透、山森喬夫、富岡正光、浅岡威親、大津

正典、鈴木日出和、佐野迪雄、東振栄  
二列目：根本幸一、鹿山徳男、窪田叔子、和田房治、奥平昌彦、渡辺四郎、永瀬敏行  
三列目：福島通夫、島崎淳、中野練一、野口晃平、中神恒男、陶易王  
最後列：中野夫人、若菜夫人、飯田宏美、中山宗春 (島崎 淳)

昭和53年卒同期会

予想外に早い梅雨明けを受けた猛暑の中、昭和53年卒の同期会が2013年7月14日に行われた。一次会は新丸ビルのイグレック丸の内(41名出席、二次会は帝国ホテルのアクア(23名出席)が会場であった。医学部卒業後35年の時を経て、ほとんどの者が還暦を越えて初めての同期会であった。

りに、場もとても和んだ。物故者4名に黙祷を捧げた。乾杯の音頭は織田成人君(また59歳！なので、大いなる嫉妬を含んだブーイング多数)。ユーモアあるスピーチにより宴が始まった。一次会では立食と着席を組み合わせたので、初めは8つのテーブルの島に分かれていた面々が次第に盛り上がりみせ、各自が徐々に席を替え、話が弾んできた。時間の関係もあり、各テーブルからひとりずつの挨拶があった。

最近、福島県立医科大学会津医療センター漢方医学講座教授に就任した三瀧忠道君、千葉県内できわめて高い評価を得ている、東京女子医科大学八千代医療センター病院長の寺井勝君、新潟医療福祉大学教授の遠藤和男君らが現在の活躍ぶりを報告し、参加者一同大いに勇気づけられた。全般に男性陣より女性陣の方が若く見えるという事実は、今回も変わらなかった。あつという間の2時間が過ぎ、既にメートルの上がっている面々も多かったが、20名が二次会場に向かった。

二次会から参加した栗野文子さん、松本明石君、吉原俊雄君を含めた23名が再び充実した2時間を過ごすことができた。会場も狭くなり、話の密度も濃くなつたようであった。当日の記憶が薄い面々も多かったのではないかと推測される。我々の同世代の多くの方々がすでに定年退職を迎え、身分を改めて社会に貢献するか、少し早い年金生活に入っている。同期生一同が医師免許証を持ち、定年に関してはまだ猶予があるが、その分、社会的責任も大きいことを肝に銘じる必要があると思われる。

そして、同期会の翌日には、得丸君から早速、同期会の写真2葉がメールにて送られてきた。それに応える参加者からのメールも届き始めている。「千葉大学の同期生は人柄のよい人ばかりで、誇りに思います」というメッセージが多くあった。次回の同期会の開催を望む声も既に多数あり、幹事一同新たに気を引き締める思いである。次回も多くの同期生が元気な顔をお互い確認できることを望んでいる。

写真右から

前列：古屋好美、横川陽子、岩川真由美、石川てる代、正岡純子、北村由美子、榊鏡裕子

二列目：太枝良夫、遠藤和男、児玉和宏、新井貞真



西出敏雄、大宮安紀彦、野々村裕子  
三列目：小瀧勝、加藤義治、織田成人、岩井潤、寺井勝、上田源次郎、斉藤陽久、角南兼朗、宇田川晃一、小沢卓夫、山口邦雄、児玉賀洋子、榊鏡年清、山口哲生、

李元浩、山川久美、菅澤寛健、得丸幸夫  
最後列：三瀧忠道、原田順和、布村正夫、荻野幸伸、志村賢範、石川洋、小河西之、仲田勲生、小池正造 (児玉和宏)





追 悼

吉田尚先生のご逝去を悲しむ

齋 藤 康 (新潟大・昭43)



いつもにこやかに、背筋を伸ばされて、すこしせつかに、足早に歩かれるお姿を思い出しながら、在りし日の吉田先生を思い出して、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

先生とは内分泌代謝という同じ専門分野であることもあり、学会などでその活躍は存じておりましたが、昭和58年5月本学にご赴任されました。直接にご指導をいただくことになりました。その当時は、免疫アレルギー、血液、消化管という研究室もありましたが、広い内分泌代謝という領域にあっても、またほかの分野でも、教室員が進めている領域について、先端的なことを含めて実に知識をよく整理され、その重要な領域、先端の領域について自らの考えをよく教室員に話

してくださいました。吉田先生は、知らないことがあるということが一番先生自身にとってストレスになる教授じゃないか、などと陰でいう若い教室員もいるくらい、先生に聞けば何でも教えてもらえるので勉強しなくてもいいのかな、などという研究員もいました。回診などで患者さんの病態をどのように説明するかというような時でも、勉強すればするほど先生はいろんなことを教えてくれるんだよな、という印象を述べるものもあり、最低限の基礎知識は教えるがそれ以上は自分がやってきたら、大いに議論しようという御姿勢であったように思いました。素晴らしいご指導方法で、何とかして教授からあの知識を引き出そう、などと挑戦したことが懐かしく思い出されます。

先生との思い出はつきません。医局旅行に行ったこと、浴衣姿で肩を組んでお好きな長崎は今日も雨だった、を歌ったこと、いろいろな学会にご一緒して鋭いご質問をなされ、あとでほかの大学の先生から、吉田先生はあんな厳しい質問をするんだから教室員は大変だね、といわれ、大変誇りにおもったことなど思い出されます。

ご退任あとも先生を慕っているいろいろな会にお誘いしました。快くいつでもおいでいただきましたが、足の具合がいけないので今回はごめんね、という先生のお言葉に変な思いが走りまわりましたが、よもやこのような悲しみになるとは知らずにいましたが、君もまだ、まだまだね、と言われていた先生のお姿を想像しています。先生、安らかに眠りください。

十一周年亥鼻祭開催のお知らせ

亥鼻祭実行委員会委員長

医学部四年 小野 亮 平

来たる十一月二日(土)及び三日(日)の二日間に渡り、本年度も亥鼻祭を開催する運びとなりました。亥鼻祭とは亥鼻キャンパスにおいて行われる医療系大薬学部、医学部・看護学部・薬学部の三学部が協同して実施しております。医療系キャンパスという特徴を活かして、その企画内容も趣向を凝らしたものととなっております。例えば、身体ふしぎ発見、という企画では、

や体位変換の仕方、車いすの使い方などを丁寧に教えて頂きます。さらに千葉大学を志している受験生に向けての受験相談なども実施しています。これらはほんの一例ですが、是非とも当日ご来場頂き、様々な企画を周って頂ければと存じます。

本年度の亥鼻祭のテーマは、W.I.I.I.です。十一周年という新たなスタートの年に對して、未来を築こうという意味、さらには確固たる意志を持つて亥鼻生全員が亥鼻祭に臨もうという意味合いです。この十年間、亥鼻祭は同窓会の方々を始め、地域の方々や保護

者の方々のご理解のもとで継続して開催して頂くことができました。この場を借りて深く感謝申し上げます。また例年、医療系有名人という企画で医療者の方に講演を行って頂いておりますが、今年度は銚子市立病院院長の白濱龍興先生をお招きする予定です。経営破綻した病院を地域と共に建て直していらっしゃる先生で、そのお話を中心にご講演して頂く予定です。

2013年 第38回 りのはな美術展 -千葉大学医学部OBによる美術展- 10月7日(月)~13日(日) AM11:00~PM6:30 最終日4時 初秋の候、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。例年通り下記の会場で、第38回展を開催いたします。ご多用中恐縮ながら何卒ご高覧賜りたくご案内申し上げます。 懇親会 10月12日(土)午後2時 会場にて

今年度も皆様との出会いや関わりを築ける大学祭を亥鼻生全員で創り上げる事ができるよう頑張りますので、ご来場を心からお待ちしております。

アリセプト advertisement with image of a man and product list. Includes text: アリセプト 5mg, アリセプト 10.5%, アリセプトD, アリセプト 3mg, アリセプト 10mg. エーザイ株式会社



# 研修プログラム

## 救急集中治療医学

千葉大学大学院医学研究院  
救急集中治療医学

教授 織田 成人 (昭53)

当教室は、1995年に国立大学4番目の救急医学講座として開講し、すでに18年が経過しました。大学院の救急部・集中治療部を担当しており、現在はICU/CCU22床、救急部一般病床10床を運用しています。当院ICUは術後患者、救急外来からの重症患者(主に三次救急、院内の急変患者、他院からの重症患者)を受け入れており、内科系・外科系を問わずあらゆる重症患者を治療管理するジェネラルICUです。スタッフは、すべて当教室で救急科専門医、集中治療専門医の両方の専門医を取得した、あるいは今後取得する予定の医師で構成されています。救急科は、2008年4月から標榜可能な診療科となり、18の基本診療科の一つとして位置づけられています。また、集中治療専門医は新しい専門医制度の中で、救急科、麻酔科を基本としたサブスペシ

在開院準備中の東千葉メディカルセンターが加わる予定です。君津中央病院は三次救急を主体とした救命救急センターで、ドクターヘリも運行しています。成田赤十字病院救命救急センターは地域の中核病院として一次から三次まですべての救急患者を受け入れており、いわゆるER型救急を行っています。青葉病院、久喜総合病院は地域の二次病院ですが、いずれも救急科として救急外来とICUを担当しています。東千葉メディカルセンターは、東金・九十九里地域の急性期中核病院として救命救急センターが設置されますが、その運営で中心的役割を果たす予定です。これらの関連病院研修に加えて、希望に応じて一般外科や外傷外科、小児集中治療、IVR、脳神経外科などのサブスペシ

耳耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学  
千葉大学大学院医学研究院  
耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学  
教授 岡本 孝 (秋田大・昭54)

耳耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学の扱う領域は鼻副鼻腔、耳、口腔、咽頭、気管・頸部食道、唾液腺、甲状腺と広範囲で、扱う疾患も咽頭や唾液腺などの癌、副鼻腔炎、咽頭炎や中耳炎など炎症疾患、花粉症などアレルギー疾患、聴覚・平衡・嗅覚・味覚など感覚器疾患、さらに嚥下や発声障害など多岐に亘ります。大学は、診療、研修を県内外の関連病院と密接に協力しながら進めています。関連病院は、いずれも指導医を有し複数の常勤医を配した地域の中心病院で、幅広い耳鼻咽喉科疾患の研修指導に当たっています(研修医派遣病院: 千葉医療センター、成田日赤病院、海浜病院、青葉病院、県がんセンター、労災病院、君津中央病院、松戸市立病院、船橋医療センター、駒込病院、南東北病院

活躍出来るように、常に臨床現場での課題を持って研究に進んでいくように指導しています。これまで、癌免疫、癌遺伝子発現解析、アレルギー免疫療法、上気道慢性炎症の解析、嚥下・音声機能などについての研究が盛んに行われ、これらを基盤として、特に頭頸部癌やアレルギーなどの領域では日本を代表する診療、研究機関を目指しています。研修目標が達せられ、規

定の条件を整えば専門医の認定を申請することができます。原則として研修4年目、あるいは5年目に行っています。また、研修6年目以降海外留学が可能です。教室員は診療や研究に忙しい中でも、患者さんをはじめとして、同僚やコメディカルの方への配慮を忘れないように努めており、和気あいあいとした明るい教室になっています。

## 聖路加国際病院の紹介

副院長・腎臓内科部長  
千葉大学医学部臨床教授

小松 康 宏 (昭59)

私は昭和59年千葉大学を卒業後、聖路加国際病院で小児科レジデントとして研修を開始しました。その後、東京女子医科大学腎臓病総合医療センター、千葉県こども病院腎臓科を経て、1997年から聖路加国際病院で腎臓内科医として働いております。2010年にはノースカロライナ大学チャペルヒル校公衆衛生大学院を卒業(組織運営、医療の質改善等を専攻)し、2011年からは副院長、Quality Improvementセンター長も兼任しております。

聖路加国際病院には片山正夫麻酔科部長、丹羽公一郎循環器内科部長をはじめ約20名のあのはな同窓生が勤務しております。

聖路加国際病院はキリスト教(米国聖公会)の宣教師であり医師であったRudolf B. Teusler (トイスター)により1902年に創設された病院です。トイスター先生は、病院の使命を「キリスト教の愛の心を示す生きた有機体」と述べられました。すなわち患者も家族も安心して診療・ケアをまかせられる、職員も

科です。確かにハードですが、それだけにやりがいのある仕事です。救急医療を志すやる気のある若手医師の入局を歓迎します。

では、初期研修を終えて入局すると、1年目は大学院で研修します。関連病院としては、君津中央病院、成田赤十字病院、千葉市立青葉病院、久喜総合病院があります。来々4月からは現

今年度は6名の後期研修医が入局し、専門医を目指して日々研鑽を積んでいます。以前は人数も少なく、救急医は3Kの代表と言わ

診療に当たってはこれら臨床医学を支える柱としての、解剖学、生理学、薬理学、生化学、細菌学、免疫学、病理学といった基礎学問の修得も必要で、希望する医師には大学院進学の門戸も広く開放しています。大学院では将来医師として

を最大目標としています。研修プログラムとしては、後述を指し示すことを最大の目標としています。研修プログラムとしては、後述を指し示すことを最大の目標としています。





安心と誇りをもって働くことができ、そういう病院です。こうした努力も実り、昨年は病院事業体としてはわが国初のJoint Commission International（国際的な病院機能評価機構）認定施設となりました。

患者に信頼される病院であるためには、最善の医療を提供できるような人材育成がかかせません。そのため、昭和初期からわが国ではじめて米国式インターン・レジデント教育制度が導入され、現在の臨床研修制度のモデルになっていきます。看護教育においても日本のパイオニアであり、隣接する聖路加看護大学と

0床の総合病院で、救急車の受け入れも都内1、2となっています。臨床研修プログラムの歴史も古く、毎年約20名の初期研修医を迎えています。当院の臨床研修制度の最大の特徴は、「研修カリキュラムが確立している」、「症例数が多

い」「指導医が充実している」ことではありません。当院の特徴は、研修医も重要なチームメンバーの一員としての役割、責任と自覚をも

り出す活動も大切です。聖ルカ・ライフサイエンス研究所臨床疫学センターには国内外の臨床疫学や統計学の専門家が10名ほど在籍し、病院スタッフの臨床研究を支援してくれまし、研究に必要な診療データは医療情報センターが電子カルテから抽出してくれます。さらに今年度から医療イノベーション部が設立され基礎研究をすすめる体制も整いました。

### 研修医だより

#### 後期研修2年目を迎えて

船橋市立医療センター小児科  
後期研修医 香川 悠 (平22)



千葉大学小児病態学の香川悠です。私は、平成22年に千葉大学医学部を卒業いたしました。2年間の臨床研修後に千葉大学小児科に入局し、現在は後期研修2年目として今年4月より船橋市立医療センター小児科

を実践できる能力が身につけていくことでしよう。21世紀の医療にはモデルがありません。私たちが創り出す工夫をこらし、個人ブレドではなく集団ブレドをすすめていくことが求められます。厳しい時代ですが、それだけ挑戦すべき課題があります。「雑用」をいとわず、毎日のルーチンワークのなかに新たな発見と喜びを見出すことができる、そうした若手医師を求めます。

担当医として受け持たせていただき、彼ら、彼女らの努力と勇氣にこちらも励まされる1年間でした。日常診療以外に回診やスライドのプレゼンテーションの場も多く、常に何かしらの学びをしている状況です。年間続けることができたこともまた、充実感を得られたことの一因と考えています。初めての学会発表も行うことができ、地方会や全国学会、研究会などたくさんの方の発表の場を演者として経験させていただきました。プレゼンテーションや症例発表はある程度場数を経験するということも大事だと思いますし、経験ある先生方に指導をしていただくことも自分の発表の向上に大きくつながるので、熱心にご指導くださる先生方ばかりなのがとてもよかったです。自分次第でいくらでも学ぶことができる場所ですし、先生方の研究マインドに触れ、学びにはとても恵まれた環境だと思っています。

さて、2年目はそれぞれ一般病院での勤務となりま。私は船橋市立医療センター小児科で一般小児科を学んでいます。初めての病院で4月第一週から初めての一人当直、初めての外来

など、今まで経験したことのない環境に突然おかれ、まだ数か月、戸惑いと失敗と反省の毎日です。しかし上司やスタッフの方々に恵まれ、勉強になる経験と症例数も多く、忙しい中にもとても充実した日々を送っています。昨年と違って自分の判断がそのまま自分の患者さんの方針となること、その分医師としてのやりがいと責任感と、その患者さんがよくなったときや、本人、ご家族に感謝されたときの喜びはひとしおです。もちろん自分一人では解決できないこともたくさんあります。

最後に、今後、我々と一緒に働く後輩が増えてくれることを願い、これからも千葉大学小児科の魅力をさらに多くの方に伝えていきたいと思っています。

定量的噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤  
処方せん医薬品(注)重く長期等の処方せんにより使用すること) (※経鼻器用)

**アラミスト®** 点鼻液27.5µg/56噴霧用  
Allermist® 27.5µg 56metered Nasal Spray

フルチカソンフランカルボン酸エステル点鼻液

※【効能・効果】、【用法・用量】、【用法・用量】に関連する使用上の注意、「【重要事項】」等については添付文書をご参照ください。

クラクソ・スミスクライン株式会社  
〒110-8555 東京都港区赤坂1-5-15 TEL:03-3478-1111 FAX:03-3478-1100

2013.2



# 学 生 教 育

## 2013年国際交流・学生留学報告

医学教育研究室 留学コーディネーター

朝比奈 真由美 (昭62)

千葉大学医学部は、平成19年に米国イリノイ大学シカゴ校医学部と、平成22年にトーマス・ジェファソン大学医学部と、また平成24年に韓国インジェ大学医学部とそれぞれ学部間学生交流協定を締結し、クリニカルクラークシップ(臨床実習)の交換留学プログラムを運営しています。その目的は、学生を共同で教育することにより学生の臨床能力を向上させ、国際標準レベルの医学教育プログラムの開発を目指すことです。クリニカルクラークシップ交換留学に参加した学生は、派遣先大学の学生と同じプログラムで医療の現場で診療参加を行い、大きな成果を持ち帰って来ています。

千葉大学からイリノイ大学へは平成20年度から、トーマス・ジェファソン大学へは平成22年度から毎年数名の学生を派遣し、またイリノイ大学からは平成21年度2名、平成24年度1名、トーマスジェファソン大

3月に千葉大学から1名の学生が派遣され、平成25年6月にインジェ大学から3名の学生を受け入れられたが、その際には同窓会と後援会からの援助をいただき大変感謝しています。来年度以降も派遣と受け入れを発展させていきたいと思えます。



インジェ大学からの留学生と

### イリノイ大学診断病理部

医学部6年 山崎 由里子

私は2013年米国イリノイ大学医学部臨床実習プログラムメンバー3人の1人として4月に臨床実習を4週間行つて参りました。この留学は千葉大学と交換留学協定を結んでいるイリノイ大学で、6年生が病院での臨床実習を行うことが

実習内容は現地の医学生病院実習と同等です。私の回つた診断病理部では、レジデントについて一日の業務を手伝いつつ学生用の課題をこなすものでした。千葉大の病院実習でも回っていない診断病理部での業務は、私にとって何もかも新しいことだらけでしたが、検体の肉眼的切り出しからスライドの診断までいろいろと体験させてもらいました。日本では各専門科から診断依頼があつた検体のみを扱うのに対して米国では手術検体は良性悪性に関わらず全て病理部にまわすため、腫瘍診断から肥満症に対する胃切除までバリエーションにとんだ疾患を経験しました。その中で印象深かつたことの1つに人種・地域による腫瘍疾患分布の差が挙げられます。日本人に多いと言われる胃癌は1ヶ月の中では1回も経験し

ませんでしたし、逆に大腸癌は毎日3、4件診断されていて比較的多く感じました。これを通して思ったのは、日本は人種の均一性から疾患分布に偏りがあるということだと思います。私は米国医療が日本より

留学に望んだのですが、エビデンスに基づいたガイドライン診療が中心になつている昨今、医療先進国間では水準に大きな差はないのではないかと感じましたし、むしろ特定の分野においては日本の研究の方が盛んであることを知りました。

もう1つ印象的だったのは医師のキャリアパスでした。米国では学生時代の試験成績や学業評価で専攻科が決まるため、医学生の勉強意欲が高いと言われていますし、レジデンシーが終わったあとも、その後フェローなどの職を得るためには厳しいポスト争いがあるため、一生競争体制におかれています。確かにレジデントたちをよく観察すると、上司からよい評価を得ようと心がけているのがわかりましたし、自分の将来像がはっきりしていました。その点で、医学部

できるというものです。2008年から続いており、私達で6期生になりました。私はずっと米国医療に漠然とした興味を抱いていたことと、今後のキャリアの中で医学英語が必要になる可能性を考慮してこの留学に参加しました。



レジデントBettyと山崎

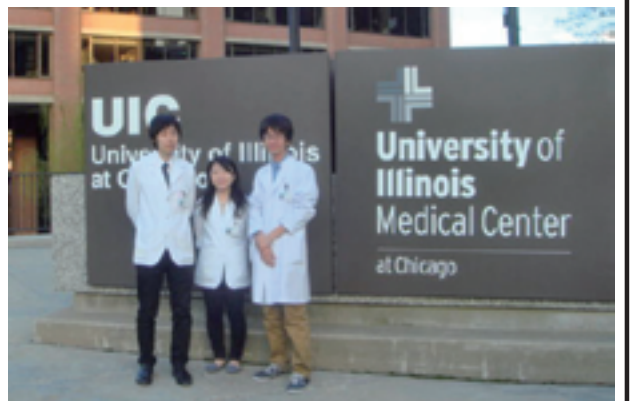
### 仁済大学神経内科

医学部6年 石井 逢子

私は2013年2月3月の4週間で韓国・仁済(仁済)大学神経内科に留学の機会を頂きました。仁済大学との交換留学協定は本年度に締結されたばかりであり、私は第一期生としての参加となりました。現代世界の医療のスタンダー

に入つてから敷かれたレールの上で漫然と日々を送ってきた自分を反省し、これから医師として働く中で常に向上心を持ち学び続けようと思えました。

この留学は私にとって日米間の医療や文化の違いを知り、自分の状況を多角的にとらえるよい機会になりました。学生の身で留学できたことが今後のキャリアを考える上でかなり大きな意味を持つと思えます。このような貴重な機会を与えてくださった医学教育研究室と、臨床留学の道を開いてくださった先陣の先生方に改めて感謝を表します。ありがとうございました。



千葉大留学メンバー3人で



大きな収穫を得ることができました。本稿では韓国の医学教育に焦点を当て、簡単ですが報告させて頂きたいと思っております。

韓国はユニークな医学教育制度を導入しており、日本と同じ6年制の医学部と、少数ではありますが4年制のメディカルスクール（4年制大学卒業後に入学）が混在しています。韓国はもとも6年制の医学教育のみ行なっていました。2004年よりメディカルスクール制度を導入、最も多い時期で全体の半分程度の医学教育機関が4年制メディカルスクールに舵を切りました。しかし現在は6年制主流に戻ってきています。理由は様々ですが、仁済大学の学長にお話を伺った時に「若い時期からの医学倫理教育が、良い医療者になるために必要だと分かった」とおっしゃっていたのが印象的でした。米国内で一定の効果を上げている制度が韓国で効果を認められなかったのはなぜか。医師が求められる資質に洋の東西で違いがあるのか。等々考えさせられました。

もう一つの違いとして、韓国の医学教育には積極的に英語が取り入れられています。terminologyは1年次の医学英語講義でしっかりと学習し、その後も英語文献メインに学習を進めるため、日本の医学生に英語水準と比較するとかなりハイレベルです。日本の英語教育はまさに急務と考えます。しかしここには問題もあるようで、そもそも韓国語の教科書はあまり出版されておらず、その上韓国学生にとっても英語はあくまで外国語であり複雑な病態生理の理解が難しい時があるという話がありました。自国語のみで一応の医学教育を実施できる日本は恵まれていると言えるでしょう。



左から神経内科と一緒に回った学生と金教授、右端が石井

とはとても仲良くなり、1人での留学だったにもかかわらず自由時間は旅行に観光に、そして友人の実家に招かれたりと寂しくなる暇もないくらい楽しく過ごしました。一生の友と言える人も得ることができました。また、特に親しい友人とは、歴史・政治・経済問題の率直な議論をする機会を持つこともできました。隣国で

あるだけに日韓両国は密度の濃い関係を持ち、行き場のない葛藤や紛争を多く抱えています。その事実を障壁として積み上げるのではなく橋として積み上げるのでは学分野でもさらなる交流が開かれることを切に願います。末筆ながら両校の先生方に心よりの感謝を申し上げます。締めくくりとさせていただきます。

異なるのは、午前中を占める長い朝回診が毎日あり、その場で治療方針を議論し実行に移すことです。その結果治療がスムーズに進むように感じました。

後半の2週間は腫瘍内科で、毎日異なる専門の腫瘍外来で問診や診察をしてレジデントにプレゼンをするという内容でした。多発性骨髄腫専門の外来など腫瘍が細分化されており専門性の高さにまず驚きました。

一人の患者を診るのに、まずは学生が診察し、レジデントがそれを補い、次に上級医にプレゼンし考察した後再度上級医と一緒に診察するという流れで1時間ほどかかることもあります。比較的ゆったりとした時間の中で患者の身体的症状だけでなく、日常生活など人として対等な関係で親身に共感している姿勢が印象的でした。また医療保険制度の違いから、化学療法は基本的に外来で行うため、治療の中断や予防内服など副作用や合併症に配慮した臨機応変な対応が見られました。

今回の留学を通じて考えた日米の違いは、①学生や研修医の問題解決能力、およびその能力を培う教育②上級医の教育者としての姿勢③成績によって将来が左右される米国の医学生の必死さです。米国の学生の授業はPBL (Problem Based Learning) という自己解決型の方式です。日本のような受け身の座学は少なく、代わりに疾患について自己学習し、与えられた主訴の症例についてチュートリアル方式にディスカッションするというものでした。このような方式が可能なのは24時間開館の図書館やシミュレーションセンターといった恵まれた勉強環境や、各科の教育専任の医師によるフィードバックがあるからだと感じました。また、学生や研修医の教育は屋根瓦式が確立していました。

### Thomas Jefferson University 循環器内科、腫瘍内科

医学部6年 小堀清子

私は昨年の夏にもThomas Jefferson Universityに短期留学させて頂きました。以前からの夢であった、米国で臨床に携わるという目標のもと1回目の留学に挑みました。米国の医療や教育の全体像を把握できたと同時に、自分の英語や知識面でも大きな課題を見つけた結果となりました。今回はそのような課題を克服し、1ヶ月間現地の学生と同様に実習を行うという学生の間でしか許されない機会に挑戦し

たいという気持ちが強く、再度留学に応募しました。前半の2週間は循環器内科のCCUで病棟実習を行いました。心臓移植後の循環動態のケアなど日本では見たことのない症例も見ることができました。日本と大

き異なるのは、午前中を占める長い朝回診が毎日あり、その場で治療方針を議論し実行に移すことです。その結果治療がスムーズに進むように感じました。

後半の2週間は腫瘍内科で、毎日異なる専門の腫瘍外来で問診や診察をしてレジデントにプレゼンをするという内容でした。多発性骨髄腫専門の外来など腫瘍が細分化されており専門性の高さにまず驚きました。

一人の患者を診るのに、まずは学生が診察し、レジデントがそれを補い、次に上級医にプレゼンし考察した後再度上級医と一緒に診察するという流れで1時間ほどかかることもあります。比較的ゆったりとした時間の中で患者の身体的症状だけでなく、日常生活など人として対等な関係で親身に共感している姿勢が印象的でした。また医療保険制度の違いから、化学療法は基本的に外来で行うため、治療の中断や予防内服など副作用や合併症に配慮した臨機応変な対応が見られました。

今回の留学を通じて考えた日米の違いは、①学生や研修医の問題解決能力、およびその能力を培う教育②上級医の教育者としての姿勢③成績によって将来が左右される米国の医学生の必死さです。米国の学生の授業はPBL (Problem Based Learning) という自己解決型の方式です。日本のような受け身の座学は少なく、代わりに疾患について自己学習し、与えられた主訴の症例についてチュートリアル方式にディスカッションするというものでした。このような方式が可能なのは24時間開館の図書館やシミュレーションセンターといった恵まれた勉強環境や、各科の教育専任の医師によるフィードバックがあるからだと感じました。また、学生や研修医の教育は屋根瓦式が確立していました。



Dr. Joseph Majdanと本人の肖像画の前で



左から腫瘍内科教授Dr.Sato、一緒に留学した金森君、小堀、Radiさん



# 課外活動団体だより

## サッカー部

医学部4年 山田 有統

千葉大学医学部サッカー部は火・木・土・日曜日の週4回の頻度で活動しています。自主練習も含めれば週6回以上活動している部員も多く、サッカーへの熱い気持ちを持った部員ばかりです。亥鼻キャンパスのグラウンドには照明設備が無いため、平日の夜は近隣の施設を借りて練習しています。土曜日は亥鼻キャンパスでの練習、日曜日は主に対外試合を行っています。

今年4月から6月にかけて開催された関東医歯薬獣大学サッカー春季リーグ(以下、春リーグ)では、2部から1部へと昇格することができました。昨年の春リーグで1部から2部へ降

格して以来、部員全員が2部優勝という一つの目標に向かって邁進してきました。難しい試合が続きましたが、仲間とともに協力し合い、改めてチームで勝利することの素晴らしさや喜びを実感しました。また、この結果は部員のみ力で成し遂げたことでは決してありません。OB・OGの方々御声援、御支援をなくしてこのような結果を残すことはできませんでした。この場を借りて深く御礼申し上げます。先輩方の御力添えがあつて初めてこうして部活動を続けていくことができていたことを忘れず、これからさらに気を引き締めて精進していきたいと思

ます。現任私達は、春リーグでの1部優勝、東日本医科学生総合体育大会(以下、東医体)での優勝を目標に日々練習を重ねてい

ます。どちらも生半可な気持ちでは到底達成することのできない目標ですが、実現できると信じています。東医体で千葉大学医学部サッカー部が優勝したのは、現サッカー部顧問の井関徹先生(昭56)が現役部員であつた頃が最後です。OB・OGの方々の御期待に応え、井関先生を胸上げすること

が私達部員の夢です。大学生活においては、学業や社会経験など多くの学ぶべきことがあります。そして、このサッカー部での経験というのも私達たちにとっては欠かすことのできない貴重なものです。こうしてサッカーに打ち込むことができる時間を大切に、常に情熱を持って努力し続けた経験は、必ず将来医療の社会に出た後も役立つと考えています。



## 世界の医療を考える会

医学部2年 田之上 英樹

世界の医療を考える会代表を務めている医学部2年の田之上英樹と申します。部活名からはあまり活動内容がわからないという方がよくいらつしやるので、この機会に主な活動をいくつか紹介させて頂こうと思

ます。まずこの部活では海外の医学部と交換留学を行っております。これは、アラバマ大学やイリノイ大学などと千葉大学が行っている留学とは全く別のものです。国際医学生連盟(IFMSA)という世界規模の学生NGO

団体に加盟して行っているものであり、もちろん千葉大学からも正式に認可を頂いております。この留学は、大学で行く留学よりも比較的安価に行くことができ、プログラム内容も自分でコーディネートできるため、観光も楽しめるというメリットがあります。毎年部員が5名前後、北米やヨーロッパ、アジアなどの様々な医学部に、長期休暇を利用して1ヶ月ほど留学しており、また、同様に5名前後の留学生を受け入れています。

は、同じく留学生が来ている他の大学と合同でパーティを開いたり、色々な場所に観光に連れて行ったりもしています。実際のところ、留学や留学生との交流を目的に入学する新入生が多いです。

2つ目の主な活動としては、国際医学生連盟やアジア医学生連盟、医ゼミなどに参加し、他大学と合同で勉強会やボランティアを行ったりしています。特に国際医学生連盟には、前述の交換留学部門以外にも医学教育に関する部門や国際保健や地域医療に関する部門などがあり、多くの医学生がディスカッションや勉強会を行って意見を交換し合っています。部門によつて





は直接アフリカまで足を運んだりもしています。勉強の後は懇親会をするところも多いので、全国の医学生と親睦を深めることもできます。

ここまでの活動は主に外部の学生団体と共同で行うものを紹介してきましたが、世界の医療を考える会単独の活動としては、年に何度か行われる活動報告会があります。普段は部員それぞれが自由に活動しており、代表でさえすべての活動を

把握しきれてはいませんが、この活動報告会によりお互いの活動を共有することができます。メインの部活の異なる部員と交流できるのも、普段の部活とはまた違った面白さがあり、多くの刺激を受けることができます。

## 会 員 从 来

### 終 戦 直 後 の 千 葉 大 学 医 学 部

嶋 田 勉 (専 25)



太平洋戦争が終結した昭和20年8月14日から日本国の統治は、全てGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)の指示で行われるようになった。

敗戦となった昭和20年は、軍隊の生活物資がまだ残っていたので何とか残った。翌21年になると全く生活物

業臨時附属医学専門部の生徒も連絡道路の東、千葉市の大部分を焼失させた昭和20年7月7日未明の大空襲の焼失を免れた千葉医科大学本館に集まり講義が始まった。

ここで3月に入学試験も実施された。空襲警報発令で試験も一時中断された。ピアノが一台ある寒い講堂で二階は図書室である。英語も良く学んだ陸海軍出身の生徒達、医学の他にも内地・外地を問わず修業年数が同等以上の生徒が集められたゴチャマゼの生徒達であつた。

以上が世界の医療を考える会の活動となります。代表として部活を盛り上げて参りますので、これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

資不足。国全体が物資不足、そして、栄養不良の日本となつた。

5月19日には、25万人が参加した飯米獲得人民大会が皇居前広場で繰り広げられ、米よこせと叫ぶ大運動が起こつた。配給食品だけで生活していた裁判官が餓死した、と新聞に出た。

敗戦を迎え郷里へ帰つて来た千葉大学の学生・生徒達は、秋になり大学へ登校する様に通知があつた。軍医を養成することを目的で作られた千葉医科大学、千

葉臨時附属医学専門部の生徒も連絡道路の東、千葉市の大部分を焼失させた昭和20年7月7日未明の大空襲の焼失を免れた千葉医科大学本館に集まり講義が始まった。

大正13年12月、千葉医科大学助教として東京帝国大学から法医学教室設立の緒を開いた加賀谷勇之助教授が赴任された。先生は俳人で松林の小路を歩き、唯一戦災を免れた基礎医学教室に通つた。水原秋桜子・高野素十らに誘われ高浜虚子の門下生となり、ホトトギス同人であつた先生が通う小路は、俳名の凡秋にちなんで「凡秋谷(ほんしゅうだに)」と呼んでいた。

私達医学専門部の生徒は、四年の卒業予定が戦争で三年に短縮され、戦後は五年に延ばされた。

教師も生徒もオーバークロートに体を包んだ講義であつた。戦勝国である中国の留学生達がお互いにノート比べていた。

東洋一と言われた千葉医科大学附属病院(現、医学部本館)は、迷彩の為に黒くダンダラ模様染められていた。北側に精神科棟、北東に屍体置場と剖検室を兼ねた建物があつた。市の道路沿いの奥に薬学部の木造建物があつた。連絡道路の南側はテニスコート、海軍から来た友人とテニスをやつた。北側は野球場、その西側崖の中腹にある元銃器庫は、後に解剖実習室にされた。

大正13年12月、千葉医科大学助教として東京帝国大学から法医学教室設立の緒を開いた加賀谷勇之助教授が赴任された。先生は俳人で松林の小路を歩き、唯一戦災を免れた基礎医学教室に通つた。水原秋桜子・高野素十らに誘われ高浜虚子の門下生となり、ホトトギス同人であつた先生が通う小路は、俳名の凡秋にちなんで「凡秋谷(ほんしゅうだに)」と呼んでいた。

私はインターンを国立千葉病院で行つた。院長三輪清三先生(戦後、千葉大学・第一内科学主任教授)の指導を受けた。医局には奥田邦雄元軍医(後、千葉大学・第一内科学教授)がおられた。外科は鈴木五郎先生(後、千葉大学・第一外科学教授)の指導を受けた。

第10回医師国家試験を大学の学生会館で受けた。合格率は良い方であつた。全国で3千人余のことであつた。医師国家試験の発表を待つて私は、病理学教室に研究生として入室した。

病理学教室は、附属病院に近い方が良いという滝沢延次郎教授の考えで病院屋

上のサンルームをも教室にした。『屋階の病理』といわれた。法医学教室以外の基礎医学教室は空襲で焼失してしまいバラック建てであつた。

病理学教室も病院4階の眼科の部屋に隣にミクロトームのある染色室を利用した。トイレ等で眼科の鈴木宜民教授にお逢いすると、私達の染色液で汚れた白衣を、きたないと言つてよく叱られた。

その後、滝沢延次郎教授の病理学教室に研究生として入室した。病材の講義補助をさせられて沢山の臨床の先生方を知つた。焼け残つた病理学教室のコンクリート建ての標本庫からホルマリン漬けた標本を探し出したりしていた。その標本庫へは連絡道路を歩いて行かねばならぬ。その先は千葉市亥鼻町

ではなく、千葉郡都村である。基礎医学の仲間を「みやこクラブ」と呼んだこともある。

昭和31年5月、医用動物学(後、寄生虫学)の横川宗雄教授が着任し同居する事になった。同じ頃、大阪市立大学から岡林篤教授も赴任したが、焼跡に建てた木造教室に居を構えた。それから2年後、新築された医学部(現、看護学部)に移転することになった。そして、滝沢、岡林両教授の部屋が隣室になった。

何年か前の同窓会で母校の近況を尋ねてみたら、連絡道路の両側には桜が茂り、その先には新しい病院(現、医学部附属病院)があつて、駐車場はどこも満杯。高層のビルディングが隙間なく立ち並んでいた。そして、旧病院(現、医学部本館)の中も改装されていた。

以前の同窓会オンライン会報にてご案内いたしました「ドイツ・チェコ近代医学史の旅 2013」につき、本誌上で簡単に報告させていただきます。日

### 「ドイツ・チェコ

#### 近代医学史の旅

杉 田 克 生 (昭 54)

### 2013 報告記

イブツヒ、ベルリンの医学史関連施設を見学した。プラハでは、ストラホフ修道院内見学(哲学の間、神学の間)、トスカノ宮殿外観(ファサード2つの塔の間の屋根の部分を飾る彫像は、中世の自由学芸三学四科を表す)、フラチャニ広場(ペスト柱)などを見て歩いた。残念ながらカレル橋が数日來の大雨で川面が上昇したため通れなかつた。旧市街ではカレル大学哲学部、カレル大学本部、ケプラーの家に加え、プラハ在住のガイドが見つけ出してくれたブルキンエが住み没した家跡(ブルキンエ通り沿い)を見学した。

ドレスデンでは、ツヴィンガー宮殿北側のアルテ・マイスター絵画館に入館し、森鷗外が感動したラファエロの「システイーナのマドンナ」を鑑賞。その後ライプツィヒにバス移動し、鷗外が友人井上らと食事した場面を示す壁画があるアウエルバッハスケラーにて夕食とした。翌日には、ライプツィヒ大学の図書館内を係員に案内してもらい、またベザリウスの解剖書第2版を見せていただいた。

医学教育部門 (UernKlinik) では、Prof.Christoph Baerwaldからドイツでの医学教

程は2013年6月7日より6月15日、総勢16名(おのほな同窓会員は貞永嘉久先生(昭35)、金城まさこ先生(昭47)と杉田の3名)でプラハ、ドレスデン、ラ



育の現状を拝聴し、Dr.Dr. SY. ROZOLIからは教育用人的形などを用いた教育実践を教示していただいた。ちなみにDr.ROZOLIは千葉大医学部も以前訪問されており、その縁で千葉大学国際課から紹介された。源氏物語を学生時代学んだ文学博士でもあり、日本語も堪能な才媛である。

ベルリンでは森鷗外記念館を見学し、その後徒歩でベルリン大学病理学研究所を訪問した。研究所玄関ホール床には、ヴェルヒョウの“Omnis cellula a cellula”と彫られたプレートがはめ込まれていた。病理医のProf.Michael Hummelに所内を案内してもらったが、特に印象に残ったのは病理解剖のための階段教室である(写真)。学生のみならず卒業後教育として臨床医も参加する研修に現在も用いているとのことである。ベザリウス解剖学書の扉絵を見るように、医学教育における歴史的背景の違いを痛感した。隣にはベルリン医学史博物館があり、Prof. Thomas Schmalkeの説明で見学した。標本展示棚では特に32歳で呼吸不全で死亡した巨大結腸症(Hirschsprung's disease)の標本が印象に残った。その後シャ

リテー病院内キャンパスを常世田好司先生(前免疫発生物学講師、現ドイツウマチ研究センターグループリーダー)に案内していただいた。キャンパス内には、Rudolf Virchowに加えAlbert von Gräfe、Robert Koch、Emile Fisher、Paul Langerhansなど錚錚たる医学史上の偉人像が諸所に置かれていた。

今回の医学史の旅では、テーマとした近代ドイツならびにチェコ医学の片鱗に触れることができた。今回の企画にあたり、高林克日己教授、森千里教授、田丸

淳一教授はじめ千葉大学医学部同窓会の先生方から多くのご助言ならびに関係者のご紹介をいただきましたことに感謝いたします。また、本取材の内容はオンライン会報に後日掲載する予定です。



ベルリン大学病理学研究所、病理解剖のための階段教室

## 千葉県のはな会

平成25年5月号 第13号



目次	
巻頭言	1
千葉県医師会創立100周年記念	2
千葉県医師会創立100周年記念	3
千葉県医師会創立100周年記念	4
千葉県医師会創立100周年記念	5
千葉県医師会創立100周年記念	6
千葉県医師会創立100周年記念	7
千葉県医師会創立100周年記念	8
千葉県医師会創立100周年記念	9
千葉県医師会創立100周年記念	10
千葉県医師会創立100周年記念	11
千葉県医師会創立100周年記念	12
千葉県医師会創立100周年記念	13
千葉県医師会創立100周年記念	14
千葉県医師会創立100周年記念	15
千葉県医師会創立100周年記念	16
千葉県医師会創立100周年記念	17
千葉県医師会創立100周年記念	18
千葉県医師会創立100周年記念	19
千葉県医師会創立100周年記念	20
千葉県医師会創立100周年記念	21
千葉県医師会創立100周年記念	22
千葉県医師会創立100周年記念	23
千葉県医師会創立100周年記念	24
千葉県医師会創立100周年記念	25
千葉県医師会創立100周年記念	26
千葉県医師会創立100周年記念	27
千葉県医師会創立100周年記念	28
千葉県医師会創立100周年記念	29
千葉県医師会創立100周年記念	30
千葉県医師会創立100周年記念	31
千葉県医師会創立100周年記念	32
千葉県医師会創立100周年記念	33
千葉県医師会創立100周年記念	34
千葉県医師会創立100周年記念	35
千葉県医師会創立100周年記念	36
千葉県医師会創立100周年記念	37
千葉県医師会創立100周年記念	38
千葉県医師会創立100周年記念	39
千葉県医師会創立100周年記念	40
千葉県医師会創立100周年記念	41
千葉県医師会創立100周年記念	42
千葉県医師会創立100周年記念	43
千葉県医師会創立100周年記念	44
千葉県医師会創立100周年記念	45
千葉県医師会創立100周年記念	46
千葉県医師会創立100周年記念	47
千葉県医師会創立100周年記念	48
千葉県医師会創立100周年記念	49
千葉県医師会創立100周年記念	50
千葉県医師会創立100周年記念	51
千葉県医師会創立100周年記念	52
千葉県医師会創立100周年記念	53
千葉県医師会創立100周年記念	54
千葉県医師会創立100周年記念	55
千葉県医師会創立100周年記念	56
千葉県医師会創立100周年記念	57
千葉県医師会創立100周年記念	58
千葉県医師会創立100周年記念	59
千葉県医師会創立100周年記念	60
千葉県医師会創立100周年記念	61
千葉県医師会創立100周年記念	62
千葉県医師会創立100周年記念	63
千葉県医師会創立100周年記念	64
千葉県医師会創立100周年記念	65
千葉県医師会創立100周年記念	66
千葉県医師会創立100周年記念	67
千葉県医師会創立100周年記念	68
千葉県医師会創立100周年記念	69
千葉県医師会創立100周年記念	70
千葉県医師会創立100周年記念	71
千葉県医師会創立100周年記念	72
千葉県医師会創立100周年記念	73
千葉県医師会創立100周年記念	74
千葉県医師会創立100周年記念	75
千葉県医師会創立100周年記念	76
千葉県医師会創立100周年記念	77
千葉県医師会創立100周年記念	78
千葉県医師会創立100周年記念	79
千葉県医師会創立100周年記念	80
千葉県医師会創立100周年記念	81
千葉県医師会創立100周年記念	82
千葉県医師会創立100周年記念	83
千葉県医師会創立100周年記念	84
千葉県医師会創立100周年記念	85
千葉県医師会創立100周年記念	86
千葉県医師会創立100周年記念	87
千葉県医師会創立100周年記念	88
千葉県医師会創立100周年記念	89
千葉県医師会創立100周年記念	90
千葉県医師会創立100周年記念	91
千葉県医師会創立100周年記念	92
千葉県医師会創立100周年記念	93
千葉県医師会創立100周年記念	94
千葉県医師会創立100周年記念	95
千葉県医師会創立100周年記念	96
千葉県医師会創立100周年記念	97
千葉県医師会創立100周年記念	98
千葉県医師会創立100周年記念	99
千葉県医師会創立100周年記念	100



# 同窓会員著書の紹介

上山 永晃 著  
句集「鶴翼」

本阿弥書店 定価三、〇〇〇円(税別)  
増田 善昭(昭35)



鶴翼とは鶴の翼を張ったように正軍が相手に対峙する陣構えであり、奇を衒わず堂々と臨機応変にものに対処する先生の俳句に対する姿勢を拝しているようである。

珍答案ありてやすらぐ  
大試験

上山滋太郎(昭33・俳号永晃)先生は私の二学年先輩であり、学生時代、法医学教授の加賀谷凡秋先生の指導する千葉大学やばぎ俳句会で俳句を学び、兄弟子として面倒をみて頂いた方である。やはぎ俳句会には当時、萩原季葉、村山さとし、三枝かずを(いずれも俳号)等の錚々たる先輩がおられたが、永晃先生はその中でも個性的な句を詠んでいたことが忘れられない。先生はその後法医学の道に進まれ、獨協医科大学法医学初代教授に就任、退官後、同大学名誉教授、現在、老人保健施設「春祺荘」施設長である。俳壇ではつとに有名であり、結社「春燈」に抛り、長年その同人会長を務められている。

先日、読売新聞の「四季」欄、長谷川耀氏に取り上げられた句であり、俳句の伝統的な諧の味を主体にした先生の代表句である。さて、医師が医業の俳句を詠むのは当然であるが、水原秋桜子、高野素十、加賀谷凡秋など法医学を学んだ高名な俳人は多いものの、これらの俳人が法医学の現場を詠んだ句は算聞にして知らない。先生はこの面でも新たな境地を切り開いた。  
人の死に狎るるを懼る  
寒鼻  
執刃逡巡冷えし幼な児  
前には汗  
また、最近では老人保健施設長として、高齢者の介

護に直接かわる句も多い。志るるは大悲なりけり  
つくしんぼ  
歩むてふ人の大事や玄葉  
振り返ると若き頃、大学の委員会、俳句の件などでしばしば先生のお部屋を訪れたことが懐かしい。先生

野尻 雅美 著  
「高齢者のQOLプロモーション  
—人生、楽しく美しく—  
マリオ企画出版



私は看護学部で23年間、保健学を主宰し、健康の定義、健康の概念について考え、生きた健康観なる概念を提示した。定年退官後、桜美林大学大学院老年学専攻に移り、高齢者の健康について考察し、健康とはQOL(生活の質)であると再定義した。

本論、QOL論の最大の焦点は、抽象概念であるQOLを視覚化したことである。WHOの健康の定義には、HealthはWell-beingであると書いてある。ここで

はいつもパイプを啜えながら私事に対してもにこやかに相談にのってくれた。復五十年止めて日脚の伸びにけり  
お互いに当時の姿に戻れないのが残念である。(二〇一三年発行)

このQOL座標の活用にあたり、幸せ軸の心棒であるスピリチュアリティの構造を明らかにした。QOL(点を高く右方に押し上げるのはケア(キユアを含む)であり、スピリチュアルケアの関与も図示した。さらに人生の究極の目的であるサクセスフルウェルビーイングもQOL座標の上で展開した。それは人生(余命)、楽しく美しく生きることである。

この理論に興味を覚えた先生方には、さらにバージョンアップした詳細が日本健康医学会誌22巻2号に掲載されているので、ご覧いただきたい。  
現在、私は日光市の老健施設で高齢者のQOLを高めるべく日々の活動を行っている。高齢者の幸せ度を高め、満足度を高め、安寧度を高める実践である。本書はそもそも退屈な自伝である。高いQOLを求めて歩んでいる一医学徒の生きざまに多くの頁を割いている。ある人から「この本は人生の処方箋ですね」と有り難い評価をいただいたが、その瞬間に、私のQOLは天井に届いたことを思い出す。先生方のお一人おひとりQOLの視点から人生を総括し、ご自身の生きた処方箋を書いてみては如何でしょうか。

私は看護学部で23年間、保健学を主宰し、健康の定義、健康の概念について考え、生きた健康観なる概念を提示した。定年退官後、桜美林大学大学院老年学専攻に移り、高齢者の健康について考察し、健康とはQOL(生活の質)であると再定義した。

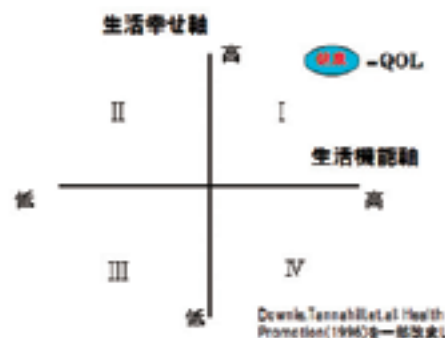


図1 QOL座標 (健康座標)

## 受賞

第20回小学館ノンフィクション大賞  
松永 正訓(昭62) 著  
「トリソミー～  
産まれる前から短命と定まった子」



EPA製剤  
**エパデールS**  
300 600 900  
イコサペント酸エチル・軟カプセル剤  
薬価基準収載

EPA製剤  
**エパデール** カプセル 300  
イコサペント酸エチル・軟カプセル剤  
薬価基準収載

※「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等の詳細は添付文書をご参照ください。

エパデールS300  
エパデールS600  
エパデールS900

製造販売元 < 資料請求先 >  
持田製薬株式会社  
東京都新宿区四谷1丁目7番地  
TEL 0120-189-522(学術) F160-8515

2013年7月作成(N16/18)



# 「医学部後援会と ゐのはな同窓会の連携について」

ゐのはな同総会会長・伊藤晴夫と、同副会長・鈴木信夫が医学部後援会会長・三浦正義と平成25年5月23日、懇談を行いました。

伊藤…医学部後援会とはこれまであまり関連がなかったのですが、白衣式、卒業式、謝恩会等と一緒にさせていただく機会も多いので、なにか連携ができるのではないかと思ひ、この懇談会を設定しました。また、医学部後援会から、135周年記念事業に対し、多額のご寄附を賜りました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

三浦…ご担当の先生より、現在の新しいのはな同窓会館の進捗状況を伺っております。今後、後援会の理事会や総会の席上で、再度、新しいのはな同窓会館への寄附を検討することになっております。

後援会の中には、同窓会のOBで子弟が千葉大に入られている方がけっこういらっしゃると思います。今年の新入生のご両親の中にもOBの方が数人いらして、次の理事をお願いしています。そうした方々にも寄附の検



伊藤会長

三浦…医学部後援会でも、学生活動費として亥鼻祭や留学生交流支援等にいろいろと支援をさせていただいております。すでに修学援助費(白菊会、白衣式、国家試験対策等)を予算化しております。今年度はさらに課外活動援助費として東医体への積立を予算化する予定です。他には、学生懇談費としてチューターの先生への助成や亥鼻祭、図書費を支援しています。

伊藤…目的が明確ですね。

三浦…後援会の支援の同窓会のそれとの違いは、国家試験前の学生に国家試験に合格してもらうための支援として国家試験対策費への支援を手厚くしている点ですね。具体的には、各学年にいる国試対策委員に直接援助しています。彼らは試験傾向などの情報収集をしたり、模擬試験を行っています。

鈴木…後援会の会員に対してはどのような活動をしていますか？

三浦…会員向けには年一回の総会時に講演会を開催しております。昨年の講演会は東北大学川島教授(脳トレで有名な)にご講演いただきました。今年は54年卒の第三内科OBの先生で、「千葉を日本のシアトルに」という千葉市医師会のキャンペーンで、ベシシクラ

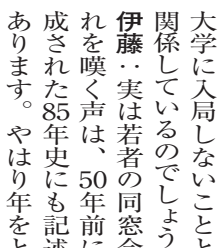


三浦医学部後援会長

一線の啓蒙活動をしている中村先生にご講演いただきます。総会後の懇親会で仲良くなるご父兄もあり、親父の会もできています。伊藤…ゐのはな同窓会における課外活動助成については、亥鼻祭等の他に、留学生交流支援があります。三浦…後援会では、これまで留学生交流支援の予算はありませんでした。ただし、24年度は韓国との交換留学の学生さんを受け入れるときの費用の一部を予備費より支出しました。この事業は次年度以降大学の予算として計上されるようですね。

鈴木…学生でも国際交流をするサークルがあり、夏休み等を利用して、海外からの留学を受け入れることがあります。こうしたことに同窓会や後援会から支援があればと思ひます。また、交流大学へ留学する医学部学生は自費で行っているところが多いので、その聞いたことがあるので、そういうした医学部への支援も必要ではないかと思ひます。

鈴木…そうですね、国際交流への支援なども今後提案してみたいと思ひます。鈴木…東医体への支援は、後援会と同窓会で重複していますね。同窓会では東医体への支援のあり方が議論になることがあります。後援会と調整することも今後考えていきたいですね。



鈴木副会長

三浦…それはいいですね。伊藤…ところで、亥鼻祭への援助はどのように行われていますか？

鈴木…課外活動への共通の支援として提案ですが、新しいのはな同窓会館にできる合宿施設等の備品購入の支援も一つの方法ではないでしょうか。

三浦…それはいいですね。伊藤…いい取り組みですね。伊藤…いい取り組みですね。伊藤…いい取り組みですね。

視線は、いのちへ。

グローバル・スペシャリティファーマ。  
抗体医薬をリードする、協和発酵キリンです。

# KYOWA KIRIN

協和発酵キリン株式会社  
http://www.kyowa-kirin.co.jp



平成25年度 第1回常任理事会議事要旨抜粋

日時：平成25年4月17日 (水) 18時より

場所：東京ステーション コンファレンス

- 出席者：伊藤晴夫(会長)、大井利夫(副会長)、濱陽高穂(副会長)、鈴木信夫(副会長)、秋葉哲生(会計監事)、田中光(会計監事)、税所宏光(参与)、青木謹、岩倉弘毅、織田成人、三枝一雄、宍倉正胤、鈴木守、田邊政裕、中田義隆、花輪孝雄、吉川広和、伊藤晴夫(代理)、森豊、吉原俊雄

第一期工事について説明された。

(2)広報編集関係について 鈴木信夫副会長より、次回のはな同窓会報は平成25年5月14日発行予定で、編集委員会が4月11日に開催されたこと、次々回の発行は9月の発行予定のため7月頃までに寄稿願いたい旨、また千葉日報に千葉大

学同窓生の開業医の紹介記事を掲載しているため、千葉県内で開業されている先生の紹介をお願いしたいこと等が報告された。

2. 協議事項

(1)名誉会員の推薦について 瀧口正樹理事より、資料に基づき説明された。名誉会員推薦に関する内規に則り7名を候補として総会に諮ることが承認された。

(2)役員選出について

大井利夫副会長より平成25年度の役員選出について説明があり、総会、理事会に諮る旨承認された。

(3)平成24年度決算

白澤浩理事より資料に基づき以下の通り説明があり承認された。収入については、ほぼ予算どおりである。支出では、会報・会誌につ

(4)会計監査

田中光監事、秋葉哲生監事より監査の結果、会計処理が適正である旨、資料のとおり報告された。

いては会報の頁数増加のため予算額を上回るが、郵送料等の節減のため、ほぼ予算どおりの額である。IT広報関連経費は予算を超えている。常任理事会の承認に基づき予備費より支出した同窓サポートプロジェクト経費により卒後50年記念メダル、感謝状や卒業生の銘板等を作成した。全体として約60万円の黒字決算であった。

(5)平成25年度予算 白澤理事より当日資料に基づき、平成25年度予算について以下の通り説明があり承認された。収入については、同窓会館設立のため常任理事会で承認された同窓会基金よりの移管分を計上した。支出については、

り、白衣式支援、卒業生の写真銘板、卒後50年にメダル・感謝状を贈呈していること等、説明があった。

(6)のりのはな同窓会賞選考結果

田邊理事より、資料に基づき、今年度から新しく設けられた社会貢献賞につき顕彰の種別・評価方法について説明があり、選考基準の審議、承認に続き、選考委員会からの推薦について審議、承認された。

(7)総会議題等について

三枝一雄理事より、資料に基づき、平成25年度のりのはな同窓会総会は、千葉県

のりのはな会の担当にて平成25年6月29日に開催される

ことが報告された。

(8)その他

田邊理事より新のはな同窓会館建設経費について説明があった。総工事費2億7217万円に対し、準備金(同窓会基金からの支援を含む)は平成25年3月31日現在で総額2億5381万円のため今後の寄附を考慮しても不足する旨報告された。大井副会長より対

平成25年度 ゐのはな同窓会総会議事要旨

日時：平成25年6月29日 (土)

場所：三井ガーデンホテル 千葉

出席者：57名 委任状：634名

伊藤晴夫会長の辞、瀧口正樹理事の司会により開会となり、まず物故者に黙祷を捧げた。伊藤会長の挨拶の後、同会長が議長に選出され議事が進められた。

議事

(1)名誉会員の推薦について 瀧口理事より、内規に基づき推荐された7名について説明があり、承認された。

(2)年次活動について(報告事項)

(1)庶務部報告

策として同窓会基金からの支援を平成25年度予算原案では5000万円としたが、経費不足を考慮し7000万円に増額することが提案され、承認された。

青木謹理事より総会の開催日について、原則として6月の第何土曜日に固定することが望ましいとの提案があり、今後総務会等で検討することとした。

鈴木信夫副会長より、平成24年度の各会議開催や各支部との交流等について報告された。

(2)事業部報告

同副会長より、同窓会賞、学外研究助成の授与、同窓会報の発行等について報告された。

(3)平成24年度決算について

白澤浩理事より、決算内容について以下のとおり説明があった。収入については、会費収入は予算額を下回ったが、事業収入と会報の広告収入が増額となり、

(1)決算報告

ほぼ予算どおりであった。支出については、会議費・委員会費は評議員会開催を見送り、給与についてはフルタイムの雇用を見送った

ため、余剰となった。備品費はエアコン買換えのため予算額を上回り、会報・会誌については会報の頁数増加のため予算額を上回ったが郵送料等の節減のためほぼ予算どおりであった。常任理事会の承認に基づき予備費より支出した同窓サポートプロジェクト経費により卒後50年記念メダル、感謝状や卒業生の銘板等を作成した。

(2)監査報告

田中光監事および秋葉哲生監事より、監査報告があり、決算案が承認された。

(4)平成25年度事業計画について 鈴木副会長より、会報発行、各地域のはな会への支援、各地域のはな会と本部間との交流、研究教育助成、IT広報関連事業、

のりのはな同窓会館設立(135周年記念)事業、同窓会員組織の充実等について説明があった。同窓サポートプロジェクトについては田邊政裕理事より、卒業生・在学生の支援を通じた同窓会活性化を目的としたプロジェクトであり、白衣式助成、卒業生の写真銘板、卒後50年にメダル・感謝状を贈呈していること等、説明があった。以上につき承認された。



(5)平成25年度予算案について

白澤理事より、各予算項目について以下のとおり説明があった。収入については、会費収入の減額を計上し、常任理事会で承認された同窓会館設立資金として

の同窓会基金よりの7,000万円移管を計上した。支出については、同窓会賞の学術賞を廃止し新たに社会貢献賞を予算化、学外研究助成を廃止し芸術活動助成金を増額、同窓会活性化経費を設け同窓サポートプロジェクトを予算化、同窓会館設立事業費を設け建設資金(同窓会基金よりの移管相当分)を予算化した。以上につき、承認された。

(6)役員の出選について 大井利夫副会長、瀧口理事より、現役員の任期(2年)満了に伴う新役員の選出について会則等の説明があった。

①会長・副会長 会則第8、9、14条に則り、会長の伊藤晴夫氏、副会長の

大井利夫氏、瀧口高穂・鈴木信夫各氏、参与の大濱博利・小幡裕・税所宏光各氏、会計監事の田中光・秋葉哲生各氏の再任が承認された。

②理事 会則第12条に則り、幡野

雅彦、黒木春郎両氏の理事選出が承認された。

③評議員 会則第8条に則り、総会を理事会併催としたうえで、幡野雅彦・黒木春郎両氏の常任理事選出が承認された。

(7)新ののほな同窓会館設立事業について 田邊理事より、新ののほな同窓会館建設工事の進捗状況について写真等による説明があり、平成25年12月竣工予定である旨報告された。

(8)その他 鈴木守理事より、同窓会会員親睦会について、参加者同士の親睦を深め同窓会を魅力ある団体に盛り立てるため自由に懇談するといふ趣旨のもと計画中である旨報告があった。

伊藤晴夫会長の辞により、閉会となった。

ののほな同窓会賞表彰式 田邊理事の司会により、社会貢献賞(永井友二郎氏、寺井勝氏、堂垂伸治氏)の表彰式が行われた。伊藤会長より表彰盾と副賞が授与された。

記念講演

黒木春郎氏の司会により、前野哲博氏(筑波大学医学医療系地域医療教育学教授)が「大学における地域医療教育学」と題して講演された。

懇親会 宍倉正胤理事の司会により開会された。伊藤会長の挨拶に続き、香田真一氏の乾杯ご発声、千葉日報社、同窓会賞受賞者、叙勲者、名誉会員諸氏等からご挨拶を頂いた。歓談の時を過ごし、閉会となった。

平成25年度総会において選出された名誉会員

- 安里 洋 氏 (昭33) 本島 悌司 氏 (昭45)
小越 章平 氏 (昭36) 河野 陽一 氏 (昭48)
中田 義隆 氏 (昭36) 張ヶ谷健一 氏 (慶応大・昭47)
伊藤 達雄 氏 (昭42)

平成25年度予算

Table with 2 columns: 款項目, 平成25年度予算額(円). Rows include 会費等, 事業収入, 他会計より受入, etc.

平成24年度決算報告

Table with 4 columns: 款項目, 予算額(円), 決算額(円), 対予算額(円). Rows include 会費等, 事業収入, etc.

注：収入、支出の主要細目等

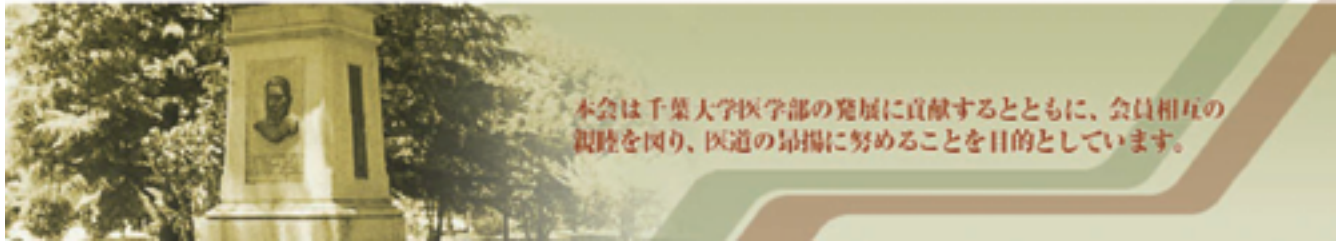
Table with 5 columns: 収入の部, 支出の部, 款項目, 25年度予算, 24年度予算. Detailed breakdown of income and expenses.



# オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>

## みのはな 千葉大学医学部 みのはな同窓会



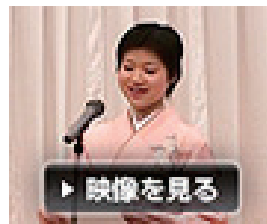
インターネット上での動画配信を目的とするみのはな同窓会報「オンライン会報」では、会員の先生方及び学生の皆様に多大なご協力を頂き、タイムリーな情報を提供してご好評を頂いております。特にキャンパス便りのコーナーでは、医学部の謝恩会や亥鼻祭などの行事、学生諸君の部活動の様子等を配信しています。本紙面では、オンライン会報・キャンパス便りにて掲載している動画番組をご紹介致しますので、是非インターネット上でご覧いただき、若さあふれる熱気を画面から感じていただければと思います。また、千葉日報紙に掲載中の病院紹介記事「頼りになります街のお医者さん」とオンライン会報を連動させた動画も配信しておりますので、お楽しみ下さい。

皆様からのオンライン会報掲載のお申込みを、心からお待ちしております。

### キャンパス便り



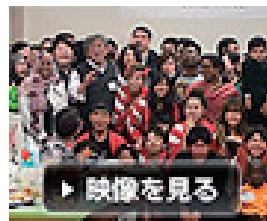
新のみのはな同窓会館  
新営工事安全祈願祭  
2013.2.18 (月)  
[2013.3.12掲載]



平成24年度  
千葉大学医学部謝恩会  
2013.3.22 (金) 午後6時～  
三井ガーデンホテル  
[2013.6.2掲載]



10周年 亥鼻祭2012  
一期一会 準夜祭  
2013.11.3日 (土) ～4 (日)



第7回亥鼻キャンパス  
留学生交流会2012  
国籍を駆け巡る和太鼓のリズム  
2012.11.2 於みのはな同窓会館  
[2012.12.19掲載]



船橋市立医療センターでの手術の様子

船橋市立医療センター・高原善治院長  
船橋市など東葛南部保健医療圏の医療ニーズに対応するため、1983年に開設された船橋市立医療センター(高原善治院長)。急性期および高度医療を提供する中核病院として市民の信頼に応えてきた。94年に救命救急センターを開設。2007年には地域がん診療連携拠点病院に特化していきたい」と話している。

◆高原善治院長プロフィール  
千葉大学医学部卒。国立循環器病センター、県立千葉病院、千葉大学医学部第一外科講師、船橋市立医療センター心臓血管外科部長を経て現在に至る。

◆診療案内 ▼ 消化器・呼吸器・緩和ケアなど各内科、小児科、脳神経・心臓血管など各外科、リハビリテーション科など22診療科と救命救急センター▼ 病床数449床▼ 受付時間 8時30分～11時30分(月・金、祝祭日は除く)。

救命救急センターは24時間体制▼ 住所 船橋市金杉1-21-1 (JR船橋駅北口からバス、「医療センター前」下車) ▼ 047(43)33321

船橋市立医療センター

高度急性期医療に特化

街のお医者さん 地域病院 医院紹介

その間、多くの重症多発外傷、心肺停止、心筋こうそく、大動脈リゅう破裂、脳卒中、中毒等の救命救急医療や、肺がんをはじめ消化器系、婦人科系、泌尿器系などのがん治療を行ってきた。

船橋市を含めた本県も今後、高齢者人口の急速な増加が予測される中、高原院長は「各科各部署がチームを組み、急速に進む高齢化社会にも対応できる高度急性期医療に特化していきたい」と話している。



### キャンパス便り

#### 部活紹介



ラグビー部  
[2013.6.2掲載]



水泳部 準優勝  
第16回館山オープンウォーター  
スイムレース2012.7.16開催  
於 館山市北条海岸沖  
[2012.11.13掲載]



薬学茶道部  
[2012.5.7掲載]



バレー部  
[2012.4.25掲載]



卓球部  
[2012.3.21掲載]

#### オンライン会報から閲覧可能な医学部のサークル

- ・フットボールクラブ・水泳部・弓道部・ソフトテニス
- ・ラグビー部・バドミントン部・剣道部・女子バレー部
- ・男子バレー部・女子バスケット部・山岳部・音楽部
- ・手話の会・準硬式野球部・バスケット部・ヨット部
- ・硬式野球部・卓球部

その他・千葉大学英友会

#### 千葉日報紙との連携による医院紹介について

現在、オンライン会報の医院紹介と連動して千葉日報紙に「頼りになります 街のお医者さん」を掲載しております。この企画では、千葉日報社の希望もあり、千葉日報紙の読者層が千葉県民を主としているため、千葉県内でご活躍のみのはな同窓会会員の紹介をさせていただいています。今後は、全国のみのはな同窓会会員の活躍をより多くの方々に知ってもらうために、各地のみのはな会でも、地元紙等と連携してこのような企画が展開できないか、検討を進める予定です。したがって、その際には、会員の皆様方にご協力をいただきたくよろしくお願いたします。



あきば伝統医学クリニックのスタッフ  
フ。前列右から2人目が秋葉院長

身体が疲れやすく、けん怠感がなかなか抜けない。病院で検査を受けても特に異常は認められず、「あなたは病気ではない」と説明されて途方にくれた経験を持つ人も少なくはないはず。

このような状態を東洋医学では未病（みびょう）と呼ぶ。病気の「前段階」という意味だ。あきば伝統医学クリニックは漢方治療の専門

同クリニックには院長のほかにも2人の医師が勤務。電話による受診予約も可能。秋葉院長は「漢方医学の研究治療を通じて患者さんの健康を増進するのが私たちの目標」と話している。

◆秋葉哲生院長プロフィール  
千葉大学医学部卒業。藤平健・元東洋医学会理事長に漢方を学ぶ。同大学院和漢診療学客員教授。東邦大学佐倉病院客員教授。

◆診療案内 ▼診療科 内科、小児科 ▼受付時間 8時30分～11時30分、13時30分～16時30分 ▼休診日 木・日・祝祭日 ▼住所 山武市蓮沼二12086（緑武本線成東駅からバスで約20分、蓮沼南停留所下車） ▼電話 0475

あきば伝統医学クリニック

あきば伝統医学クリニック

街のお医者さん

地域病院 医院紹介

漢方治療の専門医院

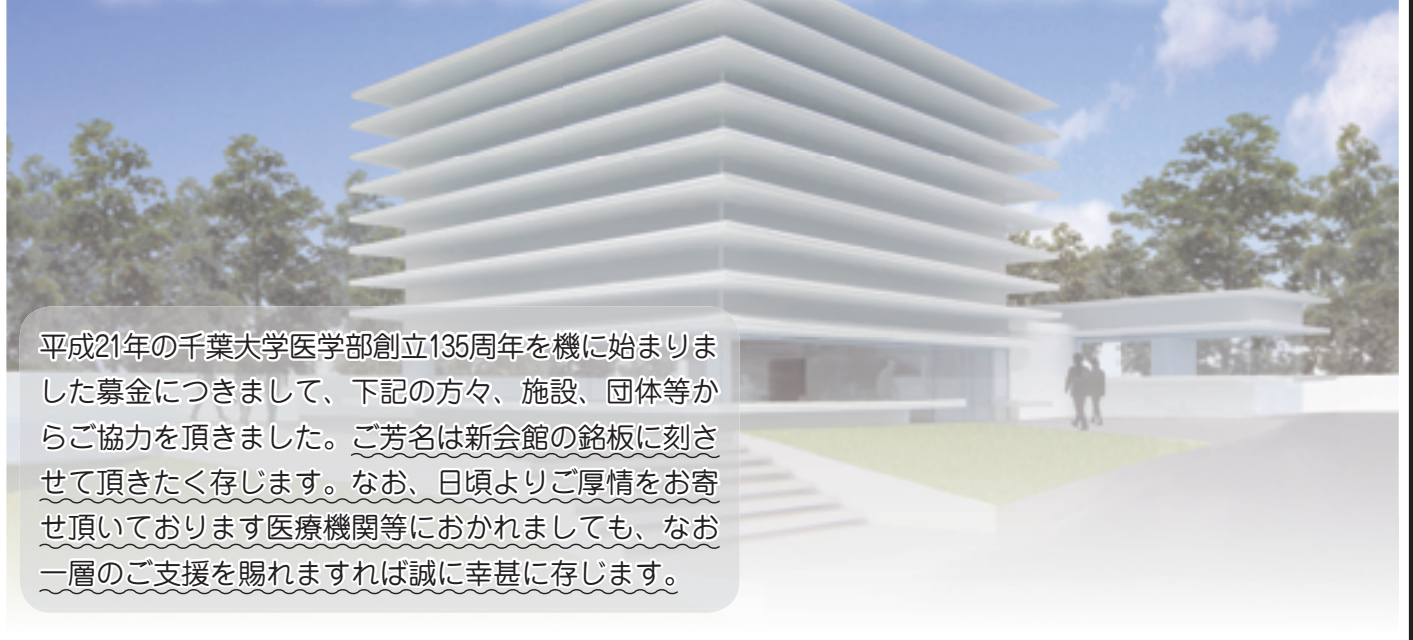
あきば伝統医学クリニックのスタッフ  
フ。前列右から2人目が秋葉院長

あきば伝統医学クリニックのスタッフ  
フ。前列右から2人目が秋葉院長



(平成25年8月15日現在)

# 新みのはな同窓会館設立事業募金状況



平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に始まりました募金につきまして、下記の方々、施設、団体等からご協力を頂きました。ご芳名は新会館の銘板に刻させて頂きたく存じます。なお、日頃よりご厚情をお寄せ頂いております医療機関等におかれましても、なお一層のご支援を賜れますれば誠に幸甚に存じます。

## 高額寄附者ご芳名

(敬称略)

300万円以上ご寄附

### 企業・法人等

財団法人 同仁会

200万円以上ご寄附

### 企業・法人等

(株) 千葉京成ホテル

鳥居薬品(株)

### 同窓会員

矢野浩二郎(平11)

## 寄附者ご芳名

(敬称略)

### 一般個人

片野 鈴枝

加藤 良二

久保田勘也

稲瀬 道和

進藤 輝山

### 医療機関

旭神経内科病院

国保旭中央病院

(医) 井上記念病院

(医) 大平会嶺井第一病院

(医) かすみクリニック

上都賀総合病院

三田川鉄千葉病院

北千葉整形外科

100万円以上ご寄附

### 医療機関

旭神経内科病院

(医) 大平会嶺井第一病院

三田川鉄千葉病院

千葉中央メディカルセンター

(医) 船橋整形外科病院

(医) 志方記念三木クリニック

### 企業・法人等

アステラス製薬(株)

キッコーマン(株)

小太郎漢方製薬(株)

第一三共(株)

武田薬品工業(株)

田辺三菱製薬(株)

中外製薬(株)

(株) ツムラ

ファイザー(株)

千葉大学医学部附属病院

臨床医学研究助成会

小埜 清

医学部後援会

同窓会員

土屋 與之(昭24)

羽生富士夫(昭29)

谷嶋 俊雄(昭34)

谷嶋 つね(昭35)

加藤 昌義(昭36)

岩倉 弘毅(昭37)

SMBC日興証券(株)

赤星工業(株)

旭化成ファーマ(株)

あすか製薬(株)

アステラス製薬(株)

アストラゼネカ(株)

アルフレッサファーマ(株)

石井食品(株)

(株) 石渡商事

岩瀬薬品(株)

(株) ウチダ和漢薬

栄研化学(株)

エスエス製薬(株)

(株) エスアールエル

エーザイ(株)

エース損害保険(株)

エルメッドエーザイ(株)

大塚製薬(株)

伊藤 晴夫(昭39)

今津 暉(昭40)

赤井 壽紀(昭43)

唐澤 祥人(昭43)

辛 秀雄(昭44)

中村 陽子(昭44)

大西久仁彦(昭47)

旭 俊臣(昭48)

早乙女 勇(昭48)

秋葉 哲生(昭50)

福井 博行(昭56)

白澤 浩(昭57)

土屋 広明(昭57)

角田 隆文(昭57)

仲野 公一(昭63)

岡本 和久(昭63)

土井 茂治(平3)

小山 虎信(公衆衛生学)

(株) 大塚製薬工場

小野薬品工業(株)

科研製薬(株)

化研生薬(株)

鹿島建設(株)

勝又自動車(株)

(株) 北原防災

キッコーマン(株)

キッセイ薬品工業(株)

杏林製薬(株)

協和醗酵工業(株)

キリンファーマ(株)

グラクソ・スミスクライン(株)

クラシエ製薬(株)

クラシエ薬品(株)

京成建設(株)

(株) ケーヨー

京業工管(株)

興和(株)

小太郎漢方製薬(株)



(株) 小山商会 千葉営業所	東京海上日動火災保険(株)	(株) ミノファーゲン製菓	小曾根卓朗	環境影響生化学	薬丸比呂志	22	石郷岡 寛
佐藤製菓(株)	東和薬品(株)	明治製菓(株)	小関 洋男	鈴木 敏和	吉田 政高	昭16	家本 誠一
サノフイ・アベンティス(株)	富山化学工業(株)	持田製菓(株)	小高 清	神経生物学	久保 武一	昭17	神山 英明
(株) ザ・マンハッタン	鳥居薬品(株)	(株) ヤクルト	齊木 教朗	山口 淳	久保 武一	昭17	千田喜久雄
(株) サラト	財団法人 同仁会	ヤマサ醤油(株)	櫻井 茂	佐藤 恒明	坂下 育美	昭17	信藤 羊一
沢井製菓(株)	(株) ナリコー	山崎製パン(株)	高橋 恒彦	須賀 秀晃	室山 優子	昭17	茂又 眞祐
参天製菓(株)	成田山新勝寺	(株) ヤンセンファーマ	高橋 和彦	高橋 卓	免疫発生学	昭17	板垣 修造
(有) サン・プランニング	ニプロファーマ(株)	ワイス(株)	高橋 恒雄	高橋 修	川内 大輔	昭17	伊東 和人
(株) サンリツ	日興コーディアル証券(株)	わかもと製菓(株)	杉浦 英一	竹本 勝己	山下 政克	昭17	海老原恒雄
(株) 三和化学研究所	日本イーライリリー(株)	千葉大学医学部	田島 啓二	橋 稔	救急集中治療医学	昭18	窪谷 満雄
(株) 志学書店	日本ケミファ(株)	附属病院臨床医学研究助成会	坪井 清七	塚田 俊行	仲村 将高	昭18	多賀谷 讓
塩野義製菓(株)	日本新薬(株)	医学部後援会	中川 良真	富永 庸平	放射線医学	昭18	西堀 乙彦
白鳥製菓(株)	日本臓器製菓(株)	相原 教之	永井 玉枝	中川 康	川田 哲也	昭18	宮崎 隆次
菅原工芸硝子(株)	日本たばこ産業(株)	浅井 俊治	中川 洋一	中田 徹亮	細田 分子医学	昭19	梅沢 亮
(株) 正文社	日本たばこ産業(株)	飯田 豊	名倉謙二郎	奈良 謙司	宮城 聡	昭19	大平 馨
ゼリア新薬工業(株)	日本たばこ産業(株)	飯田 秀也	西織 哲大	林 英一	臨床分子生物学	昭19	梅沢 馨
第一三共(株)	ノバルティスファーマ(株)	飯内 秀也	東ヶ崎邦夫	日野修一郎	武川 寛樹	昭19	井出源四郎
大正製菓(株)	バイエル薬品(株)	池内 英男	平賀 幸弘	平山 敏雄	総合診療部	昭19	清水 衛
大日本住友製菓(株)	(株) パイオニア	石神 博昭	廣元 邦浩	廣瀬 俊夫	大平 善之	昭19	平形 義人
大鵬薬品工業(株)	ファイザー(株)	石山礼美子	藤元 廣次	藤井 康史	薬剤部	昭19	鈴木 東洋
武田バイオ開発センター(株)	東日本旅客鉄道(株) 千葉支社	伊東 龍也	堀川 卓哉	藤田 邦臣	石井伊都子	昭19	佐藤希志雄
武田薬品工業(株)	富士タクシー(株)	井福 正博	堀井 宏志	堀江 利彦	先端和漢診療学寄附講座	昭20	香取 郁雄
田辺三菱製菓(株)	(株) 富士フィルムメディカル	海村 昌和	前田 雅治	松岡 才二	久永 明人	昭20	橋本 眞
(株) 千葉銀行	扶桑薬品工業(株)	太田 昌男	松田 一男	松村 雅生	循環型地域医療連携システム学	昭20	鈴木 眞
(株) 千葉成成ホテル	プリストル・マイヤーズ(株)	緒方 一	三田 信明	宮本 績輔	馬杉 綾子	昭20	水沼 三郎
千葉中央会計事務所	古谷乳業(株)	岡本 弘子	武藤大二郎	村井 健二	病理部	昭20	渡辺 兼司
千葉日産自動車(株)	ボーソー油脂(株)	小野 文雄	森 豊	森口 毅	病理科	昭20	宮田 幸三
(株) 千葉薬品	(株) ほてい家	笠間 昭彦	八木 毅典	山田 雄一	千葉大医・旧助手会	昭21	久保田亨一
中外製菓(株)	ホテルグリーンタワー幕張	勝俣 賢二	山本 幸一	与儀 実久	事務部	昭21	勝呂 安
(株) 銚子丸	ホテルニューオータニ幕張	狩野 直樹	吉井 仁実	吉岡 雅之	清水 富雄	昭21	石原 眞
塚本総業(株)	マイラン製菓(株)	上川床総一郎	吉澤 尚嗣	与芝 真彰	堀江 寛	昭21	郡山 春男
(株) ツムラ	丸石製菓(株)	丸石製菓(株)	若松 英彦	脇田 正実	同窓会	昭21	齋藤 豊一
帝人ファーマ(株)	マルホ(株)	丸万壽司	和正 正英	渡邊 修	同窓会	昭21	中島 治彦
トーアエイヨー(株)	丸万壽司	三井ガーデンホテル千葉	医学部後援会	渡邊 修	同窓会	昭21	永瀬 仁一
(株) 東葛幸文堂	丸万壽司	三井住友海上火災保険(株)	医学部後援会	渡邊 修	同窓会	昭21	長崎 邦泰



西宮 脩	武井 稔	久我 哲郎	伊藤 進	阿部 定生	昭26 渡辺 武夫	山崎 義人	宮内謙二郎	畑 徹	中村 裕	中野 正義	中澤 甫計	高木 美典	嶋田 勉	木内 達弥	河崎 明彦	円城寺 榮	石毛 義治	相磯 敬明	專25	葛田 瑞世	越後貫 誠	池田佐嘉衛	昭25 山本 寅三	山口 寅三	南谷 幹夫	久安 徹	中村 精男	中村 彰	土田 功一	下坂正次郎	河野 正賢	奥野 文雄	大橋 平治	植草富二郎	石井 貞一	
細田 裕	土手内守人	四家正一郎	大倉 淳男	石井 邦夫	横山 宏	森川 二郎	船曳 甫	奈良林 定	長嶋 晟	中田 秀明	竹之内 弘	下野 武	島田 光重	神原 昌言	柏谷 秀雄	市川 邦男	青木 宣昭	渡邊 良彦	佐久間光史	稲田 正實	山本 惇	山川 晋吾	福山 正臣	幡野 永由	中村 瞭	徳政 義和	鈴木 一郎	霜島 正雄	神山 一郎	岡田 宏一	太田廣三郎	石川 哲也				
塚本 勉	平林 健六	鈴木 正剛	柴崎 晃	小山隆一郎	熊谷 信夫	川邊 兼美	金子 敏郎	奥井 裕	上野 正和	阿部田辰一	青木大三郎	昭28 壬生倉 勝	石橋 源三	渡辺 慎一	三橋 慎一	藤田龍五郎	鍋谷 欣市	中野 清幸	武宮 三三	原 恒男	高見澤裕吉	住吉 孝男	櫻井 稔	小沢 昭司	大濱 博利	有馬 忠正	阿部 忠夫	昭27 平川 達	津村 澄雄	大沢 弘和	専26 吉田 敏郎	柳澤 文憲				
寺嶋 克郎	武市 亨	鈴木 正巳	清水 惟義	澤田 勤也	小澁 雅亮	窪田 靖夫	唐木 清一	加藤 一雄	小田 博之	梅澤 英正	石川 佳夫	秋山 龍男	磯垣 弘	渡辺 勲	本間 康正	広田 和俊	長崎 進	得本 真義	関口 和夫	橋爪 壯	庄司 榮徳	黄田 照光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	有田 文章	森 巨敬	内藤 和穂	小関 芳昌	渡部 士郎	大和 山					
森田 茂	南園 義一	松田三樹雄	藤山 嘉信	永野 俊雄	中島 和彦	十束 支朗	高橋 宣光	志村 昭光	指田 和明	後藤 澄夫	小林 茂	片山 喬	岩井 忠志	伊谷 昭幸	新井多喜男	浅見 敦	青木 昭治	昭30 和房 房治	福島 通夫	長谷川 透	中野 練一	富岡 清海	柴田千葉男	佐藤 忠夫	鹿山 徳男	大藤 正雄	荒木 晃	昭29 若杉幹太郎	吉田 道	山下 泰徳	松本 龍二	古川 英政	長谷川正博	戸賀崎義治		
横田 俊二	村瀬 和太	丸川 大雄	古屋 和男	野本 政雄	中野 裕	富田 光雄	滝口 康	高橋 良平	清水 正道	齊藤 富久	小林 健次	加濃 正明	大坪 雄三	伊藤 敏夫	石神 一良	浅利 行男	秋元 駿一	米本 昭彦	羽生富士夫	根本 幸一	中塚 正夫	島崎 淳	佐野 迪雄	窪田 叔子	大原 一夫	有馬 道男	吉田 恭二	山田 達哉	森山 典男	本位田泰介	平田 正雄	成田 光陽				
清水 文七	石川美智子	佐藤 俊一	近藤洋一郎	小林 延年	加藤 直幸	小高 稔	岡本 達也	宇野 一真	磯野 可一	石川 恭子	相原 茲明	昭33 依田 勇二	村上 和	前田 昌利	福田 陽	林 達幸	野本 昌三	西村 忠雄	中村常太郎	谷川 久一	高橋 英世	仙波 恒雄	三枝 一雄	柏木 登	石川 正士	有馬 道雄	昭32 山口 慶三	船橋 茂	辻 輝藏	香田 真一	加藤 繁夫	海老原雄一	庵原 昭一	昭31 吉原 一郎		
菅谷 健彦	嶋田 俊恒	椎名 益男	花岡 建夫	小林 ち子	金子 勇	小野寺美津雄	小形岳三郎	新井 禮子	柏戸 正英	石川 稔生	安里 洋	和田 康敬	横尾 敦夫	牧野 耕治	藤田 真	平嶋 毅	芳賀 士郎	野口 照義	夏目 隆一	戸川 清	竹内 達	高橋 柳子	斎藤 幸洋	神田 收茲	大久保恵司	飯塚 正章	山野 元	西原源太郎	杉山 伸子	桑原 久	小野清四郎	上原すゞ子	渡邊 英詩			
長谷川鎮雄	成田 静子	中田 益允	鈴木 茂	佐藤 重明	佐藤 秀三	柳原 宏	河野 勇輔	北方 允	海保 達夫	軽部 富美夫	岡田 光生	市村 公道	雨宮 浩	昭35 吉井 功	横山 宏	田口 勝	矢野 光保	矢崎 征多	藤田 昌宏	原 久彌	関 泰男	多田 富雄	鈴木 高彦	清水順三郎	坂田 早苗	倉持 正昭	遠藤 幸男	植田 伸夫	赤星 至朗	昭34 吉田 貞利	榎垣 有徳	森 富喜子	新美 仁男	土井 偉誉	武田 從信	高木 學治
藤村 眞示	西川 侃介	永田 一郎	千野宗之進	嶋田 裕	佐藤 甫夫	貞永 嘉久	阪 信	草刈 隆	神田 敬	軽部富美夫	岡村 隆夫	大井 利夫	石川 哮	吉井 功	横山 哲夫	山本 成元	谷嶋 俊雄	松原 保	原沢寿三男	野口 徹男	津金澤督雄	高木 良章	清水 精子	塩川 喜之	春日 建邦	齋藤 篤	植村 研一	石川 堯夫	御子柴幸男	谷川 章子	林 國春	長崎 護	辻 陽雄	高野 光司		
高梨 健治	瀬川 昌明	杉岡 全彦	斎藤 璋光	黒岩 幸雄	小野 幸雄	安達恵美子	伊藤 文雄	石山 淳一	昭37 吉野 明昭	横山 健郎	守山 洋一	前嶋 清	藤塚 立夫	長谷川幸子	野本 一夫	中田 義隆	塚原 重雄	谷合 幸雄	関 幸雄	鈴木 伸典	青木 謹	今野 昭義	吉永 雅俊	栗原 正明	吉川 武彦	川村 光毅	加藤 昌義	小野沢君夫	岡田 信道	昭36 新井 一夫	山崎 英雄	村松 準	三橋 稔	真島 吉也	堀田とし子	
中村 嘉孝	高井 弘毅	岩倉 正胤	宍倉 真知子	油井真知子	勝田 貞夫	奥山 隆保	伊東 治武	入枝幸三郎	吉井 逸郎	山崎 修道	松本 隆	淵上 隆	福山 悦男	長谷川修司	野尻 雅美	中島 伸之	谷口 滋	瀧澤 英夫	鈴木 光	白石 博康	齋藤 利隆	近藤 省三	黒田 健昭	栗原 敬二	北原 孝子	川村 孝子	加藤 喜市	小越 章平	石下峻一郎	横山 孝一	谷嶋 善昭	増田 善昭	松山 迪也	堀江 武		
遠藤 毅	上原 義信	飯田 一憲	阿部 克彦	昭39 秋草 政史	若新 政史	山岸 亜人	宮治 誠	緑川 亮	三木 重義	藤本 重義	林 直諒	野本 泰正	長山 忠雄	鳥羽 剛	寺島 市郎	十河 正寛	玉置 哲也	蘭部 和子	香西 襄	黄田 江庭	金城 和夫	大和田英美	穴沢 輝一	大木 勲	浅野 尚	昭38 綿引 義博	油井 信春	山本 駿一	柳沢健一郎	森 東司	堀口 豊	藤森 宗徳	原田 康行	中山 博		
大河原邦夫	瓜生 東一	伊藤 晴夫	田井千津子	鯉坂 秀明	渡部 浩二	山口 憲太	村山 憲太	嶺井 進	三井 静	松井 宣夫	平形 征	林 惠美	成瀬 孟	中田 瑛浩	寺嶋 周	楯 二 修一	谷 正義	高野 裕俊	佐藤 浩	畔田 温	栗原 友衛	北村 友衛	大津 裕司	木下 敏子	安達 元明	渡辺 實	佐々木 守	吉川 正宏	山口 國行	矢野 靖子	村田三紗子	布施 吉弘	福士 和夫	伯野 中彦		

伊藤 西村 枳木 田中 瀧澤 高瀬 曾野 島野 辛野 税所 荊谷 小澤 大木 漆原 遠山 青木 昭40 米満 山下 山口 本村 三浦 深尾 原 那須 塚田 高根 鈴村 白井 清水 崎山 齊藤 小林 古謝 川西 貝田 岡野 大塚	和子 亮太郎 則好 弘隆 靖広 文豊 毅 京碩 宏光 英郎 弘侑 健資 昌人 敬介 至 道子 武広 正敏 八恵子 徹藏 立 輝彦 野光政 正男 健 博一 鎮夫 次朗 樹 裕康 豊 景春 恭子 豊郷 照美 嘉則	野口 長尾 角田 竹内 高野 黒田 妹尾 関谷 崎山 小島 冠木 大本 海老 今津 天海 山本 山下 矢島 村 萬本 平形 根岸 永山 千葉 高沢 鈴木 清水 重松 坂田 今野 小林 木内 角張 小野 大森	芳夫 眞利 龍郎 興一 龍雄 元昭 紀子 素淵 宗英 比早子 莊明 徹彦 恭平 老沼 光治 照夫 弘 明美 義忠 盛三 昭代 敬矩 胤道 博 守 天 秀一 晃康 貞夫 俊憲 政寛 雄二 健次郎 忠昭	内藤 高部 谷口 更科 冠木 片倉 大沼 板谷 関 昭42 渡辺 竜 安江 御園 福田 半澤 中村 永井 塚本 竹島 高山 鈴木 白濱 塩沢 佐々木 小林 桑木 神谷 若新 大塚 飯島 天羽 昭41 吉川 山浦 石神 日景	吉庸 克 廣實 敦子 透 直躬 喬起 三 代 寛 良方 万二 正紀 康一郎 備 宣生 公大 嘉一 徹 和夫 弓 龍興 博 島田 里村 三枝 小林 菊池 柏原 落合 大島 飯島 新井 茂郎 渡邊 山田 柳沢 武者	齊 弘一 健 一郎 剛志 隆郎 達雄 從道 一男 努 勝 博之 清子 忍 龍一 豊 哲男 洋一 俊夫 英夫 義公 英彦 武徳 明 一彦 飯島 茂郎 攻 勝巳 貫一 廣隆	松清 堀井 文千代 藤塚 光慶 中村 弘道 島居 敏明 土田 弘基 玉井 輝章 滝川 弘志 諏訪 敏一 鈴木 昭一 佐野 元昭 宿谷 正毅 高橋 秀禎 間山 素行 萩原 奉祐 大友 一夫 牛嶋 綱二 高瀬 直子 千葉 幸恵 昭46 濟陽 渡辺 与儀 向井 榎本 宮内 林 長谷川 野田 中山 伴野 寺澤 滝沢 菅ヶ谷 堀 黒田	央 千代 光慶 弘道 敏明 弘基 輝章 弘志 敏一 昭一 元昭 正毅 秀禎 素行 奉祐 一夫 綱二 直子 幸恵 高穂 裕 將 純子 千代子 泰 毅 宏子 章 悠士 捷年 天神 弘尊 千見寺 勝 高橋 長裕 住吉 徹是 杉山 吉克 腰塚 格	盛 堀川 星野 藤原 高岡 中林 仲尾 島居 千葉 田代 直秀 高山 鈴木 宿谷 佐藤 文彦 斎藤 弘司 小野 哲夫 久野 宗寛 北原 宏 唐澤 祥人 梶尾 高根 小澤 俊 網代 成子 東山 都紀 辛 秀雄 佐久川 輝章 窪田 勝也 赤井 壽紀 磯村 勝美 足立 英雄 神津 照雄 高地 刀志行 齋藤 康榮 須藤 壯一郎 篠原 義賢 宮内 悦子 高橋 容子 加部 恒雄 奥村 康 野田 英明 橋本 孝雄 花輪 孝雄 永岡 喜久夫 石川 昭雄 伊藤 文憲 石川 憲之 宇津 見和郎 大野 貴夫 大岩 孝司 大西 久仁彦 岡 信男 尾形 実 加藤 誠 北沢 栄次 野口 哲夫 瀧岡 壽英 中村 剛史 徳久 剛史 竹中 正治 高島 常夫 鈴木 洋文 須崎 勢至 白井 厚治 坂口 明 若林 康之 山室 美砂子 三浦 利重 矢端 幸夫 吉田 孝宣 小林 道生 河野 陽一 片桐 博子 高圓 博文 君塚 五郎 木村 秀樹	忠昭 正満 公子 彰 政男 直文 尚文 力 渡辺 孝太郎 行夫 吉田 行夫 吉田 明弘 山岸 厚子 矢田 洋三 堀江 圭弘 星山 雅武 林崎 勝浩 西島 清美 中林 浩 千本 英世 高良 宏明 須藤 壯一郎 篠原 義賢 宮内 悦子 高橋 容子 加部 恒雄 奥村 康 野田 英明 橋本 孝雄 花輪 孝雄 永岡 喜久夫 石川 昭雄 伊藤 文憲 石川 憲之 宇津 見和郎 大野 貴夫 大岩 孝司 大西 久仁彦 岡 信男 尾形 実 加藤 誠 北沢 栄次 野口 哲夫 瀧岡 壽英 中村 剛史 徳久 剛史 竹中 正治 高島 常夫 鈴木 洋文 須崎 勢至 白井 厚治 坂口 明 若林 康之 山室 美砂子 三浦 利重 矢端 幸夫 吉田 孝宣 小林 道生 河野 陽一 片桐 博子 高圓 博文 君塚 五郎 木村 秀樹	川村 久田 浜崎 丹羽 田畑 多賀 高瀬 鈴木 櫻井 大川 久保 北野 木澤 金田 門井 萩原 大友 牛嶋 高瀬 千葉 昭46 濟陽 渡辺 与儀 向井 榎本 宮内 林 長谷川 野田 中山 伴野 寺澤 滝沢 菅ヶ谷 堀 黒田	ひろみ 俊和 智仁 有一 一郎 茂 学 直人 幸弘 昌權 木正夫 邦孝 功 庸一 隆司 奉祐 一夫 綱二 直子 幸恵 高穂 裕 將 純子 千代子 泰 毅 宏子 章 悠士 捷年 天神 弘尊 千見寺 勝 高橋 長裕 住吉 徹是 杉山 吉克 腰塚 格	船津 平野 濱野 長谷川 中村 谷口 高橋 河村 杉本 小林 結東 香掛 木口 神崎 磯部 加来 大森 内田 今田 浅野 若山 中嶋 若山 相馬 鈴木 菅野 栗原 菊池 河西 岡 大野 榎本 稲葉 石川 昭47 渡部 伴野 寺澤 滝沢 菅ヶ谷 堀 黒田	恵一 和哉 頼隆 川吉 欽哉 環子 誠 和子 和夫 弘忠 温 仲二 博之 頼仁 洋子 俊貞 神崎 頼一 磯部 加来 大森 内田 今田 浅野 若山 中嶋 若山 相馬 鈴木 菅野 栗原 菊池 河西 岡 大野 榎本 稲葉 石川 昭47 渡部 伴野 寺澤 滝沢 菅ヶ谷 堀 黒田	東 富雄 俊夫 透 正純 弘明 泰子 俊臣 徹 浅野 一木 旭 赤松 昭48 渡辺 若山 吉田 松川 葉山 西野 長尾 中嶋 若山 相馬 鈴木 菅野 栗原 菊池 河西 岡 大野 榎本 稲葉 石川 昭47 渡部 伴野 寺澤 滝沢 菅ヶ谷 堀 黒田	木内 兼坂 小川 大場 大内 上村 岩本 佐藤 五月 木村 田辺 片桐 江原 石神 浅井 青柳 昭49 横山 山田 安野 守田 保高 前川 千見寺 羽鳥 野口 瀧岡 中村 徳久 竹中 高島 鈴木 須崎 白井 坂口 若林 山室 三浦 矢端 吉田 小林 河野 片桐 高圓 君塚 木村	信二 俊章 清 明 重明 美南 逸夫 昇 誠 浅野 一木 旭 赤松 昭48 渡辺 若山 吉田 松川 葉山 西野 長尾 中嶋 若山 相馬 鈴木 菅野 栗原 菊池 河西 岡 大野 榎本 稲葉 石川 昭47 渡部 伴野 寺澤 滝沢 菅ヶ谷 堀 黒田	文子 純一 政裕 正 順子 善治 洋一 庸悦 裕夫 小 林 裕 夫 菊地 紀 夫 金子 作 蔵 入江 澄 子 岩津 都 希 雄 有田 正 明 青柳 光 生 横山 徹 夫 山本 義 一 森山 紀 之 南 昌 平 保阪 重 莉 沙 千見寺 千見寺 野村 馨 内田 宏 子 永山 洋 子 内藤 威 千葉 次 郎 高安 賢 一 鈴木 晴 彦 末石 眞 佐藤 展 將 後藤 澄 雄 若林 康 之 吉田 孝 宣 小林 道 生 河野 陽 一 片桐 博 子 高圓 博 文 木村 秀 樹
---	--	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	--	--	---	--	---	---	--



小野和則	小野純一	岩崎秀昭	森本典子	赤嶺正裕	昭51	山本博憲	山岸文雄	村野俊一	宮崎彰	松谷和徳	増田政久	野村文夫	西山徹	高橋道子	永瀬譲史	内藤正文	戸塚清一	高林克己	勝呂慶子	篠遠彰	佐々木健	齊藤万比古	小出義雄	北川道隆	河内文雄	上村公平	大森景文	上田志朗	安東昌夫	麻生誠二郎	秋葉哲生	昭50	弓削一郎	三上恵只	鳩貝文彦	野村恭子	西山裕孝									
鏡味勝	小野元子	大塚芳克	井坂茂夫	秋田徹	横須賀收	山本日出樹	森野正明	宮崎勝	宮内大成	増村道雄	本田徹	野積邦義	登坂薫	小林けい子	久保田浩一	北澄忠雄	香村衡一	尾崎正彦	稲田晴生	五十嵐辰男	篠宮正樹	佐野千寿子	佐伯直勝	後藤信昭	木村道雄	川口英昭	鴨下博	沖本光典	大塚裕	入江氏康	飯田眞司	秋谷徹	篠塚正彦	斎藤典男	小松健祐	伊古田裕子	川村健二	西山眞理子								
石川洋	新井貞男	昭53	山口一	松前孝幸	升田吉雄	古川斎	福田薫	兵頭明夫	林田和也	中村勉	塚田和美	高田俊一	鈴木久史	小林純	久保田浩一	北澄忠雄	香村衡一	尾崎正彦	稲田晴生	五十嵐辰男	奥野妙子	大迫政智	海宝雄一	香村玲子	木村正幸	小林彰	鈴木孝雄	須田啓一	高橋敏信	中沢肇	中山大典	檜前薫	広岡昇	伏島堅二	堀部和夫	松岡明	湊善重	山田善重	安徳純	伊藤公道	河合誠義					
上杉健哲	有我隆光	昭55	渡辺恒家	宮本恒彦	林北見	宮崎泉	巽浩一郎	高野正一	鈴木良一	杉浦信之	下条直樹	近藤福雄	小川充克	掛田充克	大内純太郎	石毛俊行	五十嵐忠彦	昭54	和元浩	李元浩	吉田英生	山口哲生	山久美	塚田純子	花岡明宏	中村弘	内藤隆	徳重克彦	塚本哲也	高良健司	鈴木文晴	小川敏生	川俣泰男	石川てる代	荻野幸伸	宇田川晃一	上田源次郎									
植松武史	石橋巖	吉田弘道	福田幾夫	中村真人	鶴田好孝	田川雅敏	角南祐子	鈴木克生	杉田英明	白土英明	篠遠仁	小林繁樹	軍司祥雄	萬仲子	今関文夫	伊澤英次	伊藤純	足立武則	昭56	井関徹	伊藤隆	岡陽一	笠松紀雄	亀井克彦	高在完	小林史朗	繁田美香	杉山隆夫	平良真人	田川まきみ	道永麻里	土屋明弘	中島一彰	永島薫	馬場章	堀内博行	松村千恵子	道永幸治	長雄一							
山崎正志	宮副一郎	星岡明	深沢毅	西村元伸	豊崎哲也	田中泰弘	滝口裕一	鈴木俊英	平井真紀子	今田進	亀山康男	岩立政文	池田康男	昭58	山本恭平	山口卓秀	守月尚嗣	丸山玲子	中村清吾	松本玲子	丸山清	角田隆文	土屋広明	田宮敬久	佐野信昭	龍野一郎	白澤浩	下山直人	篠崎克己	木村文夫	海保隆	岡田淳一	比アス洋子	天野穂高	昭57	吉川正治	森永哲文	望月眞人								
山本修一	森田昌男	丸山英明	武城剛	日野義宣	長門玲子	築藤和幸	田島一也	高木良之	品田克則	近藤幹夫	岸雄一	加藤信泰	石川信泰	昭58	和久真一	山西友典	安原一彰	古川敬芳	丸山宏昭	幡野雅彦	中澤功	豊泉惣一郎	丹沢秀樹	高原正信	酒井直美	中川宏治	田中尚武	高梨一紀	下山恵美	桑原聡	小野崎郁史	岡本雅臣	伊豫史朗	赤倉功一郎	昭59	伊豆敦子	横内敬二									
安達智江	昭61	保元明彦	森嶋秀樹	林秀樹	鍋谷圭宏	堂垂伸治	豊沢忠	長晃平	竹田秀一	佐野三千広	古口徳幸	窪田徳幸	北崎等	昭60	阿部恭久	有田洋右	石島秀紀	岡田朝志	菊野薫	北川憲一	佐藤典子	井上雅子	五十嵐裕章	安蒜聡	青江知彦	秋元英里	押田正規	坂本明美	大曾根義輝	加藤大介	小山秀彦	今野慎	坂本直哉	佐々木結花	佐藤直秀	新見将泰	鈴木正人	武田恒弘	関川敏彦	田島康夫	富澤稔	二宮栄一郎	佐藤さゆり	松江弘之	安原晃一	石井浩
山口浩史	松永正訓	福田光弘	野首道夫	中馬敦	武田恒弘	鈴木正人	新見将泰	佐藤直秀	佐々木一	三枝敬史	呉青洋	熊谷匡也	朝比奈真由美	江畑龍樹	大賀優	飯嶋義浩	青柳正彦	青江知彦	秋元英里	押田正規	坂本明美	大曾根義輝	加藤大介	小山秀彦	今野慎	坂本直哉	佐々木結花	佐藤直秀	新見将泰	鈴木正人	武田恒弘	関川敏彦	田島康夫	富澤稔	二宮栄一郎	佐藤さゆり	松江弘之	安原晃一	山口浩史	石井浩						





鈴木 弘祐	小野崎 晃	整形外科学	渡辺 福	多田 裕司	川上 武子	太田 節雄	阿部 博紀	小児病態学	中山 俊憲	免疫発生学	内田 昭夫	分化制御学	宮武昌一郎	齊藤 隆	遺伝子制御学	芳野 春生	小林 章弘	小野寺 勉	生殖機能病態学	伊勢川直久	動物病態学	齋藤哲一郎	発生生物学	外山 芳郎	年森 清隆	形態形成学	米満 博	分子病態解析学	佐藤 千鶴	黒田 啓	皮膚科学	小林 賢二	臓器制御外科学	清水 公子	池上 智康	細胞治療内科学
武内 重樹	篠原 寛休		露崎 俊明	上林 直子	金澤 正樹	花城恵美子			近藤 正大				中島 裕史				生永真紀夫	葛田 憲道	伊藤 勇夫			森山 行雄	豊田二美枝			松本 英夫	伊藤 文子	鈴木 啓之			齋藤 康	風戸 豊				
嶋田 健	佐藤 匡司		木村 孝雪	小河原克訓	内山 清春	石山 信之	臨床分子生物学	宮内 郁枝	杉林 昭男	江原 和枝	循環病態医科学	岩間 厚志	細胞分子医学	恒元 博	呼吸器病態外科学	遠山 富也	荒居 龍雄	放射線医学	日下 忠文	精神医学	米満 裕	日暮 協	寺田 洋臣	須田 恵	須田 淳	久原 厚生	越後貫道子	宇野沢隆夫	足立 公代	腫瘍内科学	山越 隆行	橋 昌孝	岡本 美孝	耳鼻咽喉科学	渡邊英一郎	田波 秀文
高橋美恵子	椎本 正史		工藤 逸郎	小野 可苗	大木 保秀	鶴澤 一弘		諸岡 信裕	元山 妙子	小室 一成		太田 要生	吉野 一郎	伊東 久夫	中村 修	伊藤 俊夫	矢沢 孝文	馬場 勇次	多田 式江	及川 貞	小林千鶴子	川島柳太郎	奥田 桂子	内山 幸信	三橋 麗子	寺田 修久	小関 洋男	鎌田慶市郎	土屋 恵一							

新ゐのほな同窓会館設立事業会募金状況報告書

平成25年7月31日現在

寄付者	千葉大学基金		ゐのほな同窓会寄付金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	152	51,909,000	16	3,440,000	168	55,349,000
教職員(元職員も含む)	203	24,774,000	121	4,190,861	324	28,964,861
同窓会会員	1761	126,484,000	1064	42,841,217	2825	169,325,217
後援会会員	89	5,403,000	53	2,775,000	142	8,178,000
合計	2205	208,570,000	1254	53,247,078	3459	261,817,078

翠川 鎮生  
横江 秀隆  
先端応用外科学  
伊賀 浩  
久保田 亨  
篠原 靖志  
原田 昇  
元山 逸功  
生命情報科学  
田村 裕  
心臓血管外科学  
松宮 護郎

盛永 智子  
飯寄 奈保  
総合診療部  
生坂 政臣  
薬剤部  
大森 栄  
北田 光一  
牧野 治文  
神宮 和彦  
佐久間洋一  
海宝 雄人  
伊賀 浩

手術部  
八千代代表大沢弘和(専26)  
葉々会  
昭和61年卒同窓会  
矢作会代表永野俊雄(昭30)  
西千葉医師の会  
北田光一教授退官記念事業会  
千葉大学医学部脳神経外科学教室  
もぐら会  
ゐのほな37会  
千葉大学医学部平成4年の会  
昭和53年卒同期会

～まさかの休業への備え～

東京海上日動が提供する超ビジネス保険の

## 地震休業補償

「開業されている」もしくは「開業される」先生方には、「会員総合補償制度」だけでなくこちらも必要です。詳しくは(株)パイオニアまでご連絡下さい。

<連絡先>  
(株)パイオニア 電話:0120-36-8442

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら、ゐのほな同窓会事務局にもご一報ください。

電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753  
e-mail : info@inohana.jp



抗血小板剤  
処方せん医薬品 (1日1回、食後、水で飲むこと)  
**プラビックス** 錠 75mg / 25mg  
クロピドグレル硫酸塩製剤 ●薬価基準収載

詳しくは製薬情報サイトをご覧ください。 e-MR

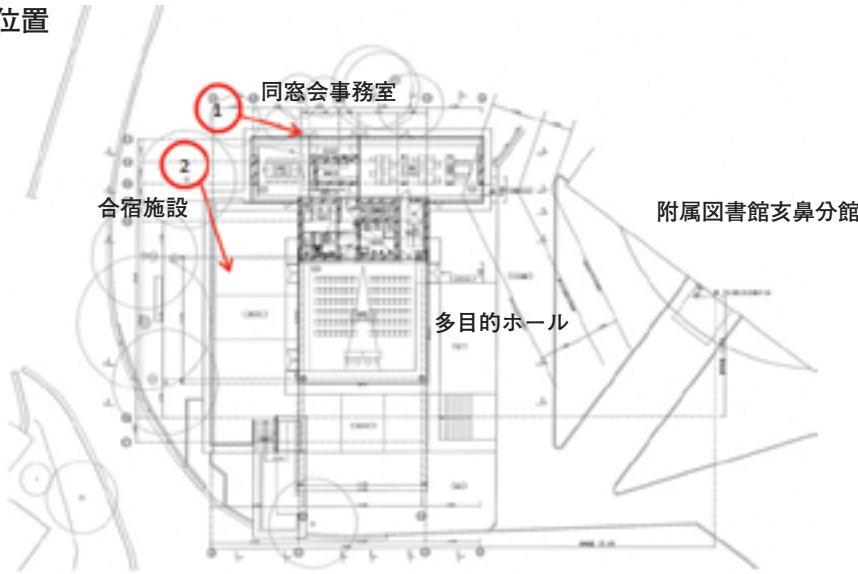
e-MR 検索

製造販売:  
**サノフィ株式会社**  
〒163-1488  
東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

2013年1月作成  
JP.CLO.13.01.33

★「効能又は効果」「用法及び用量」「禁忌を含む使用上の注意」等については現品添付文書をご参照ください。  
★資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

撮影位置



新みのはな同窓会館の建設事業は、2013年1月から工事がスタートし、安全祈願祭を2月18日に執り行いました。現在、同窓会

新みのはな同窓会館設立事業について  
建物・設備等整備委員会委員長  
田邊 政裕

事務室となるA工区と学生等の合宿が可能な会議室となるB工区の外部足場、壁、梁の建築が順調に進んでいます(写真)。工事の進行も

予定出来高にほぼ沿っており、12月には竣工予定となっております。5月末の段階で同窓会館設立事業(135周年記念事業)会へいただいたご寄附から建設工事費に当てられる資金が2億円に達しました。ご寄附

金よりの支弁が承認されていますが、最終的な建設工事費を準備するために更なるご寄附のお願いをしなければなりません。新みのはな同窓会館の完成へ向けて今後とも皆様のご支援、ご協力をいただければ幸いです。

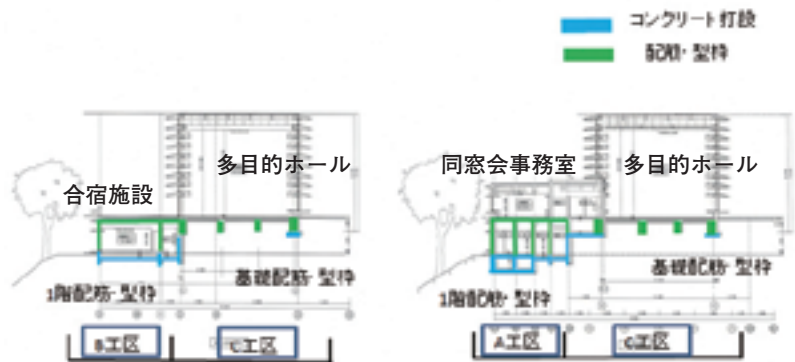
工事進捗状況 (2013.8.1 撮影)



① A工区 同窓会事務局



② B工区 合宿施設



maruho

皮膚科学領域での卓越した貢献を

マルホ株式会社

<http://www.maruho.co.jp/>

あなたの皮膚  
マルホの思い





# 雑文雑談 地名雑考

石 出 猛 史 (昭52)

筆者が以前、地方史研究誌に上梓した、『海夫注文 下総国』の地名に関する考察」という論文がある。千葉大学人文社会学研究所で編纂した、『房総中世研究文献目録(3)』に収載されているので、専門的な論文として認められたものとしてよいであろう。

『海夫注文』とは、香取神宮とその神官の家に伝わる、中世から近世にかけての文書群(まとめて『香取文書』と通称される)の一つで、応安7年(1374)頃のものとしており、現在の銚子から神崎町にかけての、24ある利根川南岸沿いの津(港)の名と、その地頭(領主)名を書き出した文書である。当時、現在の利根川から茨城県側には、『香取の海』と呼ばれる広大な内海が広がっていた。

筆者の論文は、これらの「津」の地名の語源について解析したものである。『日本語大辞典(大修館書店刊)』に挙げられている、地名の語源を調べる際の原則に従ったのだが、独自に行ったのが、地名をできる限り分

解し、『古語辞典』の記述に則って、地理的条件を考慮して解釈した。

この「注文」に、「いしての津 石出知行分」という記述がある。「石出(現香取郡東庄町石出)」という地名について、吉田東梧の『大日本地名辞書』では、旧郷名石田郷の異称としている。また清宮秀堅の『下総国旧事考』でも、「た」と「て」は転じ易いので、石田郷から転じて石出になったとしている。しかし「石田」の語源については言及していない。語源の説明としては、安易な印象がある。

筆者の解釈では、「いして」を「いし」と「て」に分け、古語の意味に従って、「いし」美しい、「て」突き出した場所」として、「風景が美しく突き出た場所」の意味とした。

赤松宗旦の『利根川図志(安政2年(1855)刊)』には、「石出」について、「此所は利根川へなり出でたるところにして、常陸原の砂山と相對し、風景至つてよろしい」とあり、筆者の解釈のとおり地形・風景で

ある。『注文』の時代には、眼前に香取の海が広がっていたのであるから、更に見事な景色であっただろう。

『注文』の津の名は、すべて万葉仮名混じりのひら仮名の清音で書かれている。「いしての津」も含めた村名は「石出村」である。この村名は当時の領主石出宏明が、旦那寺に寄進した、現存する延命地藏菩薩の胎内墨書から明らかである。

何故「石出の津」と表記されているのか。大野晋の『日本語の歴史』によると、奈良時代の『古事記』『日本書紀』では、清音と濁音を厳密に書き分けているという。一方、今日のひら仮名に相当する「女手」という文字では、少ない字種で表現するために、発音上の清濁を書き分けようとしなかったとある。

『古語辞典』では、「で」は接続助詞であり、「出」は収載されていない。これを勘案すると、「いして」の呼称の方が旧く、後に漢字が当てられたことが推定される。『注文』で同様な例は、「いまいつみの津 今泉知行分」「かうさきの津 神崎西」「知行分」でもみられる。一方「いひぬまかうや」「さ、もと」「も里と」のよ

うに、津も領主の名も共に、ひら仮名が当てられている例もある。

常陸国の『海夫注文』では、津の名だけを記載した文書は、地名にすべて漢字が当てられている。この時代は、香取地方の地名が、ひら仮名表記から、漢字に移行する時期であったのであろうか。

ジャンニジャック・ブランショの『英語語源学』(森本英夫・大泉昭夫訳 白水社刊)によると、欧州における語源学研究の歴史は千年を越えるが、その概念、分析方法が整理されたのは、最近数十年のことであるという。

## 人事異動

- 教授**  
分子腫瘍学 (旧環境影響生化学)  
金田篤志(東大・平6)  
(東大特任教授より)
- 准教授**  
手術部  
長嶋 健(昭63)  
(同部講師より)
- 細胞治療内科学**  
中世古 知昭(昭63)  
(同領域講師より)
- 講師**  
精神医学  
白石 哲也  
(同領域助教より)
- 消化器内科**  
新井 誠人(平7)  
(同科助教より)
- 他大学教授就任**  
福島県立医科大学  
会津医療センター  
漢方医学講座  
三瀨 忠道(昭53)  
(同センター準備室 東洋医学教授より)
- 東邦大学医学部  
臨床検査医学講座(佐倉)  
武城 英明(昭58)  
(千葉大学大学院医学研究院臨床遺伝子応用医学教授より)
- 東邦大学医学部外科学講座  
呼吸器外科学分野  
伊豫田 明(信州大・平3)  
(北里大学病院 呼吸器外科准教授より)
- 昭和大学医学部生理学講座  
生体調節機能学部門  
泉崎 雅彦(弘前大・平4)  
(同前任准教授より)

## 校友会総会

- ・日 時：平成25年12月7日(土) 14時00分
  - ・場 所：千葉大学けやき会館大ホール (千葉大学西千葉キャンパス)
  - ・総 会：14時00分
  - ・講演会：15時00分
  - ・アトラクション：16時20分頃
  - ・懇親会：16時45分頃
- 千葉大学合唱団

## 135周年記念誌 訂正

- 以下の誤りがございました。訂正の上お詫び申し上げます。
- 95頁 右側 9行目 塚本善昭 ↓ 塚本喜昭
  - 346頁 右側 20行目 山下晴美 ↓ 山下明美
  - 484頁 右側 9行目 英米軍によるノルマンディ上陸作戦 削除
  - 492頁 10行目 千葉県公文書館 ↓ 千葉県文書館
- \*電子版は訂正済み



### 私たちが目指すもの：それは、違いをもたらすこと

私たちの大きな使命。それは、今なお応えきれず、患者さんたちが切望する課題に取り組み、これを解決することです。

ヤンセンファーマ株式会社  
http://www.janssen.co.jp

# 千葉大学附属病院 市民公開講座



## 「がんの市民公開講座」

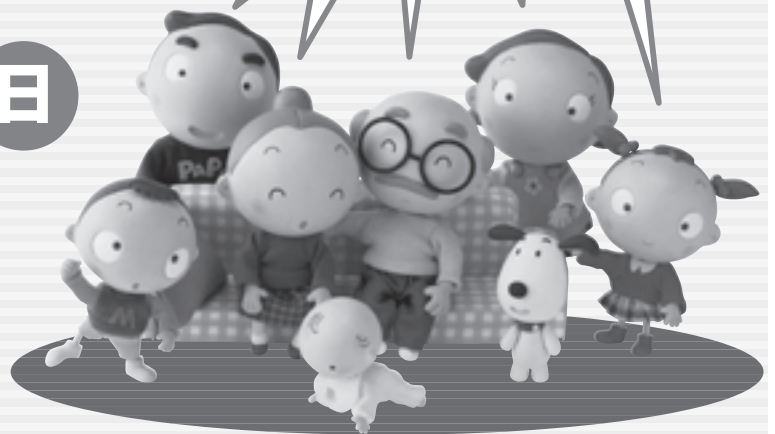
がんの予防・早期発見・最先端の治療などについて  
専門家が解説いたします。

ふるってご参加下さい

日 2014年  
時 1月26日 日  
13:00~16:30

参加無料

予約不要

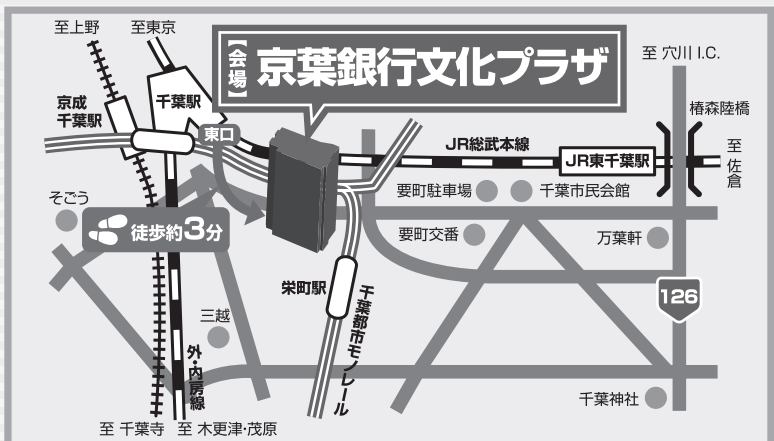


詳細は決定次第、  
千葉大病院ホームページ (<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>)、  
院内掲示板などで適宜お知らせします。

会 場：京葉銀行文化プラザ 6階「<sup>けやき</sup>櫨」

<主 催>  
千葉大学医学部附属病院  
千葉大学大学院医学研究院  
(がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン)

<お問合わせ・連絡先>  
TEL: 043-226-2806  
千葉大学医学部 先端化学療法学 (担当: 庄司)  
受付時間 / 10:00 ~ 16:00 (土曜・日曜・祝祭日を除く)





お く や み

- 大多和寿一(昭14)
- 鈴木康夫(昭14)
- 藤江寛忠(昭17)
- 桑田次男(昭19)
- 平形義人(昭19)
- 山本野實(昭19)
- 中島猛(東京医専、昭19)
- 山口昇一(昭22)
- 大宮達男(昭23)
- 小倉保己(昭23)
- 前田裕(昭23)
- 馬場勇次(前橋医専、昭23)
- 向後米造(昭24)
- 山下久幸(昭24)
- 桑原憲和(昭25)
- 塚本芳男(昭26)
- 得本眞義(昭27)
- 石川和夫(昭29)
- 西三郎(昭29)
- 秋葉藤一(日本大、昭29)
- 西村宏(昭32)
- 野本昌三(昭32)
- 堀口東司(昭37)
- 沼野健(群馬大、昭37)
- 穴沢輝一(昭38)
- 鈴木邦彦(日本医大、昭38)
- 小林立(昭42)
- 木口博之(昭46)
- 濱田眞理(昭46)
- 橋本和弘(神奈川大、昭57)
- 順一(昭25)
- 眞義(昭27)
- 和夫(昭29)
- 三郎(昭29)
- 藤一(昭29)
- 宏(昭32)
- 昌三(昭32)
- 東司(昭37)
- 健(昭37)
- 輝一(昭38)
- 邦彦(昭38)
- 博之(昭46)
- 眞理(昭46)
- 和弘(昭57)

本会報の発刊作業は、戦後より、篤志家の諸先輩により成し遂げられ、断続的にせよ何とか受け継がれ、そして、現在に至っております(インターネット上のオンライン会報より、松本中先生(昭36)、中野義澄先生(昭45)、あるいは、菊地紀夫先生(昭49)らへのインタビュー番組からも、発刊の歴史的経緯の断片をうかがい知れます)。

現編集委員数は21名であり、構成紙面が40面ほどの分厚いものとなってきております。本号でも、人々の交流や様々な方面でご活躍の皆様の様子など、時の流れを超えて、情報量満載の刻印がなされております。

ただし、本会報は、単なる記録紙ではありません。

千葉医学雑誌89巻3号 2013年6月

**展 望**  
真のファーマシューティカルケアをめざして 石井伊都子

**研究紹介**  
小胞体ストレスと疾患 小見田真理 奥山陽太 神 久子 磯野史朗 青江知彦  
画像診断・放射線腫瘍学 本折 健 宇野 隆

**話 題**  
ゲッティンゲン大学における私の神経生理学講義 (1) 高野光司

**海外だより**  
アテレード留学記 宮下智大

**学 会**  
第1249回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会  
第1268回千葉医学会例会・総合安全衛生管理機構研究発表プログラム

**OAP 要旨**  
後弯症矯正術後の偽関節に対する前後合併再手術の症例報告  
小川裕也 稲毛一秀 折田純久 山内かづ代 青木保親 石川哲大 宮城正行  
嶋田博人 鈴木 都 久保田 剛 佐久間洋浩 及川泰宏 西能 健  
佐藤 淳 中村順一 高相晶士 井上 玄 豊根知明 高橋和久 大鳥精司  
野田公俊

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

**Case Report**  
Revision surgery for pseudarthrosis and implant failure after pedicle subtraction osteotomy in a patient with adult kyphosis  
Yuya Ogawa, Kazuhide Inage, Sumihisa Orita, Kazuyo Yamauchi  
Yasuchika Aoki, Tetsuhiro Ishikawa, Masayuki Miyagi, Hiroto Kamoda  
Miyako Suzuki, Gou Kubota, Yoshihiro Sakuma, Yasuhiro Oikawa  
Takeshi Sainoh, Jun Sato, Junichi Nakamura, Masashi Takaso  
Gen Inoue, Tomoaki Toyone, Kazuhisa Takahashi and Seiji Ohtori

第89回千葉医学会学術大会

千葉医学雑誌89巻4号 2013年8月

**最終講義**  
小児免疫・アレルギー疾患の基礎から臨床へ 河野陽一

**講 座**  
公立千葉病院医学教場 石出猛史

**研究紹介**  
先端巨大症におけるオクトレオチドの臨床効果とソマトスタチン受容体の発現解析  
永野秀和 滝口朋子 中山哲俊 佐久間一基 樋口誠一郎 鈴木佐和子  
橋本直子 小出尚史 齋藤佳子 吉田知彦 中谷行雄 村井尚之  
佐伯直勝 龍野一郎 田中知明 横手幸太郎

**生殖生物学 (旧形態形成学)**  
伊藤千鶴 前川真見子 年森清隆

**話 題**  
ゲッティンゲン大学における私の神経生理学講義 (2) 高野光司

**海外だより**  
トロント大学留学記 森田泰正

**学 会**  
第1252回千葉医学会例会・第12回呼吸器内科例会 (第26回呼吸器内科同門会)  
第1259回千葉医学会例会・整形外科例会

**OAP 要旨**  
分光推定技術を応用した内視鏡画像処理の基礎的研究  
坂間淳孝 前佛聡樹 井上雅仁 中口俊哉 津村徳道 渡辺良之 堀部大輔  
久保嶋麻里 露口利夫 三宅洋一 松原久裕 林 秀樹  
宮崎 勝

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

**Original Paper**  
Clinical evaluation of an endoscopic image processing system using estimation of spectral reflectance for detecting gastric mucosal lesions  
Atsunori Sakama, Satoki Zenbutsu, Masahito Inoue, Toshiya Nakaguchi  
Norimichi Tsumura, Yoshiyuki Watanabe, Daisuke Horibe, Mari Kuboshima  
Toshio Tsuyuguchi, Yoichi Miyake, Hisahiro Matsubara and Hideki Hayashi

編 集 後 記

ません。多くの人々の絆を検証し保障する役割を担ってきたのです。くしくも、そのようなことが具現化された象徴とも考えられる新のはな同窓会館の建設が、数多くの先生方のご努力により、苦節17年ほどを経て、完成間近となっております。学生会員らの合宿所などとしても利用されるこの新会館の内装を充実させるためには、より多くの会員による支援も必須としております。是非とも御配慮をお願いする次第です。

次号以降も、新のはな同窓会館の様子は、オンライン会報によると共に、本会報にてより詳しく報告されることでしょう。お待ち下さい。

鈴木信夫(昭47)



編集委員 写真左から  
前列：三木隆司(昭63)、高橋和久(昭51)、伊藤晴夫会長(昭39)、青木謙(昭36)、堀部和夫(昭52)、吉田英生(昭53)、清水栄司(平2)  
後列：坂本薫(昭51)、杉田克生(昭54)、鈴木信夫(昭47)、白澤浩(昭57)、幡野雅彦(昭57)、木元博史(昭61)、栃木直文(平12)、廣島健三(昭54)